The Kansai University Bulletin

Osaka, June 15th, 1925—No. 30

千里山學報

大正十四年　第三十號　六月十五日發行

University Gates and University Song.

千里山學舍正門　學歌第一節　福島學舍正門

大阪

關西大學學報局

振替貯金口座 大阪一二八七五番

電話土佐堀 一〇四九・五五七〇番

千里山學報　第三十號

目次

挿繪―シベリア旅行當時の佐々教授の旅券―故マーシャル教授と本學宮島教授からの弔辭に對するマーシャル未亡人の謝狀の一部―杉野乙次郎氏と森英之助氏―横井亮祐氏の作品―福島乘馬會員―書齋に於けるマイヤー教授

悼しいチタの傳説　關西大學教授　佐々穆

英國勞働運動史概説　ジー・ディー・エッチ・コール

マーシャル傳　戸田省三抄譯

學内報――本學理事改選―本學專任教員會―本學專任教員の松本學長歡迎會―本學評協議員有志の松本學長歡迎會―川崎講師の大阪辯護士會會長當選―松本學長帝國學士院會員に推薦せらる―本學關係者の大阪市議當選―學部竝大學豫科本學年度學級委員任命―千里山工業見學團の設立―第二回工場見學―大學豫科學生の工場見學

校友の面影――杉野乙次郎氏―森英之助氏

校友彙報

學生彙報

千里山俳壇――千里山歌壇

雜錄

悼しいチタの傳説

關西大學教授　佐々穆

一

しばしば研究欄の紙面を冐し内容未熟な論文を以て諸兄の清讀を瀆したるの罪滅しとして今回は大に碎け僕自身の旅行談、就中露國チタ市に於て大切な旅券を紛失した一大失敗談を物して諸兄の笑讀に供したいと思ふのである。時は一九二三年の押詰つた師走、場所は獨逸伯林の一角ミュンヘナー街三八の裏長屋。僕は當時其所に素人下宿をして居たのであつたが愈近く懷しい故國日本へ歸朝することになつたので心も浮浮と鏡のやうに氷り切つた伯林市街の人道を足元危く彼方此方と安物の店頭を物色しながら貧乏書生に相應な繪葉書なんどの土産物を買集めて居た。勿論行程は佛蘭西マルセイユに出でて其所から郵船の船で元來た途の歐洲航路に依る豫定である、實は旅費さへ十分にあれば思つてもゾッとする炎熱地獄のやうな紅海、印度洋なんどの航海は遣りたくはないから大西洋を横斷して亞米利加に渡り其所から日本へ直航したいのであるが如何せん財布が承知せない。已むなく觀念の眼を閉ぢ厭な航海を再度餘儀なくすることにして居ると、之れは亦勿怪の幸とも云ふべきか、天來の福音が現はれた、曰く伯林發露國經由の歸朝可能！これである。伯林に留學して居た二三の日本人が寄寄この露國通過の計畫を立て在伯林露國大使館へ交渉したところが個人の通過は許さないが相當の人數が集つて團體となればモスコー政府へ通過申請を遣つてみやうとのことであつたそうで之等の邦人は大に乘氣となり早速伯林の日本人倶樂部へ大大的の掲示を遣り倫敦や巴里なんどの日本大使館へも同勢募集方を依賴した。無事に露西亞が通過できるならば誰だつて歐洲航路を二度と通る者はない、況んや謎のやうに考へられて居る勞農ロシアを外觀的にでも窺き得られるといふことになるのだから忽ち十七名の日本人が集つた、これで相當の數に達した團體が構成されることとなり早速伯林駐在の勞農ロシアの大使に交渉を正式に開始したが數日を出でない内にモスコーから通過許可の電報が來たのである。

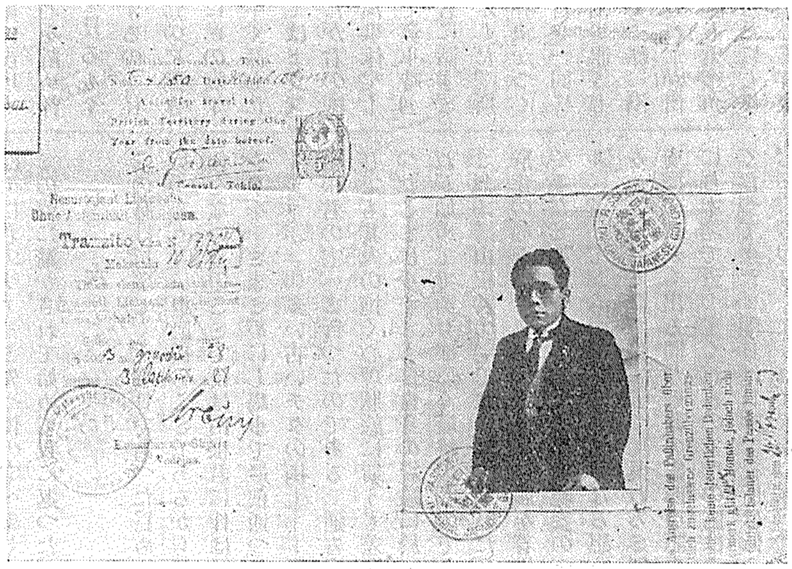
二

炎熱地獄のやうな紅海から印度洋を通る筈であつたので毛布なんどは賣飛ばす分でも之を用意する必要はなかつたのであるが今度は反對に零度以下數十度といふ氷の中を通過するといふことになると遽かに防寒具の用意が肝要となる。早速三十幾億馬克の獨逸紙幣を用意して毛布屋へ馳せつけ絊毛の極上毛布數枚靴下、シャツ、頭巾、手袋なんど一切毛物ばかり一と抱も用意し其他萬般の準備を整へ旅券の裏書も終つて愈出發の日を待つて居る。所が明日は出發しやうとする前日にリガから伯林の日本大使館へ飛電が舞ひ込んだ。曰く最近モスコーからの情報に依ると先般黑龍江河口に於て日本の官憲が不法にも露國の一漁船を拿獲したので斯かる不法行爲に對し勞農露國政府は如何なる手段を採るかとの質問がモスコーの議會に於て一議員から提出された。其に對し外務大臣は答辯して曰く斯かる不法行爲に對する報復手段として露國は今後一切の在露日本人を監禁すべし云云。出發前日に迫つて斯んな電報を突き付けられては全く閉口せざるを得ない、早速日本人倶樂部へ集合して緊急協議を開く、其の結果數人の代表者を選んで勞農ロシア大使に會見し實否を質したところ大使は破顏一笑して曰く苟も自分が責任を以て通過の安全を保障する以上は大に安心して旅行せられよ但し生命自由の安全は保障するが財産の保障は此の限りでないといふのである。財産位は固より餘計に持たない連中ばかりだから早速協議一致し豫定の通り出發しやうといふことになつた。實は僕は何だか氣味が惡くなつて來たので一時は團體から退いて單獨に元の通りマルセイユ經由郵船で歸らうかとも思つたが再び思返して矢張り皆と一緒に雪のロシアへと乘り込むことに決めた。リガ行の汽車は伯林ツォー停車場から其日の午後十時に出るので一行は何れも時間前に停車場に參集した。種種な意味に於て世話になつた下宿の女將や研究の助手として働いて貰つた若い獨逸のフロイラインや師事した伯林大學の教授なんどの打振るハンカチを後に愈よ一行を乘せた汽車は停車場を滑るやうに離れ出した。恰度此の夜は此の冬になつて始めての寒さで身を切るやうな霰が音を立てて汽車の窓に降り頻るなかを刻刻に伯林から離れて行く、苦しかつたり嬉しかつたり悲しかつたり怒つたり笑つたりした伯林よ、アウフィダゼン！

三

翌日の夕方リガに着く、北歐一帶の地は想像以上に見渡す限りの白皚皚。野も山も森も家も雪に埋れて零度以下二十幾度の極寒であ

る。一流のホテルに陣取つて二日を同地に費し三日目の朝いよいよモスコー行汽車中の人となる。恰度二十時間位で露西亞の國境に着くと銃劍の兵士が停立し稅關の屋上高く赤旗が飜つて居る、何んだか妙な緊張した氣分になる。併し稅關での檢査は案外簡單で再び發車する。四日目にモスコーへ着くのであるが其の間は唯所所に町や森が見え砂のやうな粉雪が横ざまに降り頻つて居るばかりである。革命以前の此の汽車旅行は實に愉快なものであつたそうだが今は國際寢臺車とは名ばかりで上段の席は油斷をすると落下の運命に遭遇せざるを得ないほど危なかしいものであり、加之に軌道の修繕が行き屆かないために車體の動搖は可なり激しく迚もコンファタブルどころの騷ぎではない。モスコーに着くと東方通信社の特派員たる日本人の若い記者が出迎へてくれたので一行はホテルに落付く、舊い都モスコーの雪に埋れて氷りついたなかを彼方此方と七日間もチタ行きの汽車を待ちながら徘徊したが別に得る所はなかつた。異樣に感じたのは銃劍をつけた兵士が到る處に見出されることで此の點は豫想に反したものであつた。東方通信社の記者君からロシアの現狀について種種な說明を聞き、今は一と廉の露西亞通となつた積りで愈七日目に極東チタ行きの列車に乗り込んだ。モスコーからチタまで九日間をひた走りに走るのであるが唯窓外は茫茫たる原野、横降りにふりしきる灰色の雪の中に村村や白樺の林が折折に目に入るだけで實に殺風景なものである。窓外の寒さは零度下四十度、これは全く僕等の總てが始めて經驗した極寒で迚もお話になつたものでない、汽車が停車場へ着く毎に玉子とか冷肉なんどの食料品を買に下車するのだが、寒さのために手は冷へて金の出し入れが思ふやうに出來ない。併し車內は六十度前後の溫度を維持して居るから毛布をくるんでさへ寢れば風邪をひくことはない。車內にも



シベリア旅行當時の佐々教授の旅券

食堂車はあるが迚も油こくて日本人なんどの胃袋には受け入れられない程度のものである。十二月末の北歐ロシアから西伯利にかけての冬は日の短いので驚く、而して陰鬱な天候と來てゐるのであるから堪らない、而し其所に亦あの莊重な北歐藝術の生れる原因があるのであらう。兎に角ウラルを越へバイカルを渡つて九日目にチタに到着したのである。

四

チタには日本人が唯一人居る。山根正一君（僞名）といふ若い青年で社會主義研究のためにといふよりは寧ろロシア及びロシア國民を研究するためにロシア人を妻とし既に一人の女兒をさへ設け數年此地に住んでゐる人である。モスコーから電報を打つて置いたので同君が停車場へ來て居てくれたため一行は安心してホテルのことなどを依賴した、ところがチタから滿州里行の汽車は一週二度發車するので恰度翌日午後四時に出るから其の夜は構內の汽車中で寢た方が便利、ホテルへ態態行くほどのことはない、汽車のスティムは十分に出るやうに交涉してあるとのことなので一行は其の夜は構內に停車して居る汽車を假りのホテルと定めて一夜を明した。翌日早朝この山根君が來られて一行を其の寓居に招待しお馳走しやうとのことで一行は同君に案內され、寒い中を目だけ出してゾロゾロと徒歩で約十町を距る同君の家に行つた。チタの寒さは亦格別である。襟卷ですつかり包んだ鼻毛がピンピンと氷り睫は眞白く銀線のやうに堅く氷るのであるから堪らない。山根君の家に這入ると例の露西亞式暖爐ペチカで室內は七十四五度の溫度である。熱帶植物が鉢植にされて水が滴るばかりに繁茂して居る。ロシア人の美しい奧樣のお手料理とウォッカで一行は眞に伯林發以來始めての可い心持になつた。大部メートルを上げる連中もあり、アルコールは少しも飲めない僕も殊の外に春が來たやうな心持になり山根君の多大の好意を感謝して發車時間の午後四時に間に合ふやうに同家を辭し一行は停車場へ歸つた。チタの停車場構內は宛るで人間の鮨詰めといふほどの人込みであつたが其の中を分けて一行は滿州里行の汽車へ這入り込んだのである、時に午後三時半、後三十分にして發車しやうといふのである。實に此の時であつた、僕の全身の血が一度に湧き返るかと思はれるほどのショックを感じたのは。

五

未だ我國と通常外交關係に立つて居らない勞農ロシアの領土內に於て生命に次で大切な物は實に旅券そのものである。無事通過を許す旨を記載してソヴィエット政府の極印を捺したるパッスポートがなくては國境外に出づることは一歩も許されないのである。口頭の理由や辯明はどんなに出來ても苟も證明の手段たる旅券がなくては軍事探偵との嫌疑を受けても致方がない。軍事探偵の疑の下に冷なる否な零度以下數十度の酷烈なる寒氣の裡に牢獄に繫がれるに至つたる悽慘な運命に遭着した同胞のこれありし例は既にモスコーに於て僕の親しく耳にした所である。斯かる大切な旅券に對しては此の國に這入つて以來の僕は特に深い注意を拂ひ態態專用の紙入れに之を納め二枚のチェルヴォンスク（露國紙幣で一チェルヴォンスクは邦貨の拾圓に該る）をも入れたままチョッキの內面ポ

ケットの奥深く潜めて置いたのである。今將に三十分にしてチタを去らうといふ同日午後三時三十分、恰も何心なく否な絶えずこの大切な旅券に對する僕の特別なる注意力によつて僕は其の所在であるチョッキ内面の衣囊を檢べると驚くべし右の紙入れは指頭に觸れないのであつた。そんな筈はないと更に幾度も探すが一向に見つからない、驚く心を靜め洋服を脫ぎ棄てチヨッキを脫ぎて之を見るも全く姿はないのである。妙な眞似をするのを怪しみながらも僕の顏色が變つて居たのに驚きながら一行中の誰彼れは心配そうに僕の容子を凝視して居る。簡單に理由を手早く話した僕は更に外套、上衣、ズボン、さてはトランクのなかまで一切の場所を檢査したが右の紙入は絕對に見付からない。最早や萬事休矣！時計の針は遠慮なく動いて後十分で發車時刻が來る。見送りに來てくれた山根君に話すと遉かに同君の顏色は極端な緊張を示した。斯うなつては致方がない僕は何とか解決がつくまで出發を延そうと決心して其の旨を一同に告げると皆はさも困つたやうに同情の眼ざしで一同も出發を見合はして飽くまで一緒に出發が出來るやうにしやうと云つて呉れたが僕は却て心苦しく感じたので之を謝絕し兎に角先きに豫定の通りに出發して貰ふことにし僕だけは後に殘り萬事は山根君に依賴して解決を圖らうといふことに定め、山根君も責任を以て引き受けるから安心して留り給へといふので、いよいよ一同は正四時汽笛一聲チタを出發したのであつた。前にも云つたやうに冬の西伯利の日沒は早い、午後四時と云へばスッカリ暗く電燈を付けた汽車は嘲けるやうに黑煙を吐きつつ東に向つた、今し殘した一聲の汽笛は之を恨しげに見送る僕の耳に云ひ知れぬ悲痛の感を與へたといはんよりは寧ろ名狀することの出來ない强烈な嘲笑そのものの聲としか聞えなかつた。汽車の姿がスッカリ見えなくなるまで茫然として見送つて居た僕は山根君のサァーと先づ僕の宅へ參りませうとの聲に驚かされて始めて我に返つた。

六

この日は折惡しく土曜日であつた爲め役所に行つても既に退廳後のことであるから何等要領をないとのことで僕は山根君に伴はれトランクを一とまとめにし馬車で最前通つた途——デコボコの多い古いチタの街上——を再び山根君の宅へと行つたのである。通る途は同じでも其人の抱く心理狀態に斯うも差異があつたことは少くとも僕自身の經驗に於ては之れが始めてであり亦恐く最終のものであらうと思ふ。山根君の宅では奧樣の驚いた顏が一層僕の心を暗くさせたが併し洋服を着換へ顏や手などを洗つてペチカの側で晩餐のテーブルに就いてから山根君が心からなる慰めの詞を直接に日本語で僕に云つて呉れると同時に奧樣の口から出る同じ慰藉の露西亞語を間接に日本語で云つてくれるので僕の胸は大部明くなつて來た。翌日は日曜で役所は休みであるから翌翌日でなければ旅券の再下附乃至は國境を出でることの出來る特別的手續は出來ないのであるから先づ其れまでは緩くり休息したら可いだらうと思はれるが、なかなか休息どころの騷ぎではない。勞農ロシア、日本と外交關係を爲さないロシア、個人の通過は絕對に許さないで僅かに國體の理由の下に通過を許したロシア、旅券がなくては國內さへも旅行の出來ないほどのロシア、大庭柯公君が軍事探偵の嫌疑でモスコーで投獄され遂に出獄後行方不明となつたるの事實、其の夜床に這入つてからの僕には有ゆる暗い考ばかりが頭に浮び來り、幾百幾千度となき寢返りを打ち續けて遂に一睡もせないで夜を明かしたのであつた。明くる日の日曜は山根君に連れられ進まない足を運んでチタ市中の見物を遣つた。

身を切るほどの寒さに慄ひつつ狹くて汚い雪に埋れたチタの街は此の日の僕には何等の好感を與へなかつたのは固より一層厭な暗い影を胸の一角に多くするだけであつた。こんな具合で其日は終りいよいよ月曜となつた。此地に來て既に二た夜を安眠せない僕は頭中に石塊を詰め込れたやうな氣分で早朝床を起き出で朝食もソコソコに山根君に連られチタ政廳へと行き、外交部主任に面會したのである。主任は未だ三十に手の屆いたか屆かない位の青年である、猶太系らしい風貌である。山根君の通譯で詳細に亙つて事情を述べ此の際特別取扱によつて國境を出して貰ひたい旨を申立てると主任はギロリとした眼ざしで大要左のやうなことを云つた。

チタ政府としては特別取扱などは斷じて出來ない、一一モスコー政府の指揮に從はなくてはならぬ。君がモスコーから一行十七名と一緒に來られ此處で旅券を無くされたことは間違はないであらうが然し疑へば種種に疑へる。要するに此の際モスコー政府へ問合せ果して佐々穆といふ日本人がモスコー經由チタに向つたか否かを質し若し其に相異なしとするならば君を國境外に出して可いかどうか更に君が果して佐々穆であるか否かを確める爲めにモスコー政府に提出されてある筈の君の寫眞を取り寄せて君と引き較べ然る後始めて國外に出でることが出來るのであるからたとへ出ることが出來ても可なりの日數を要する。

七

速かに居留許可を得ないと何時嫌疑者として拘引されるかも知れぬとのことであつたから其の足で國家保安部といふ約十四五町離れた役所へ行き憲兵將校の面前で前同樣の事情を說明したが之れは直ぐに假居留許可證を交付して呉れた。これで先づ一と安心といふので其日は夕方からチタ名物の一であるといふ傳說附きの共同墓地見物に出かけた。

西伯利の赤化の町に道暮れて春の名殘を如何にする。

既に四方は暮色暗膽として至り僅かに雪明かりを便りに郊外稍や遠き共同墓地の見物に向ふ——暗い胸を抱いて。共同墓地に到着すると勿論そんな時間に一人の人影はなく、唯あたりは白樺の林であつて之を縫ふやうに進み行くと點點たる十字の墓標墓石が幾つも淋しげに立ち並んで居る。此地の特色であるのだそうだが墓地の此方此方には用意の墓穴が豫め掘られてある、幸にも其所だけは雪が積つて居ないから黑く明らかに認め得られるので之を除けつつ段段と奥の方へと這入る。山根君の後から氣味惡く進んで行くと漸くにして目的の墓に到達した。墓と云つても之れは小家で石造りであり約二間平方、正面は鐵のドアで他の三方には一尺平方大の鐵窓があり格

子には同じく鐵製の刺が縦横に外方に向つて突き出されてある。窓の高さは背延びをすれば届く程度のものであるから山根君の云ふがままに其所から内部を窺き込んで見たが中は唯床があるだけで何物もない。暗くて見えないがドアの内面には頑丈な錠がブラ下つて居るそうである。この奇妙な家的の墓を前に山根君の説明する傳説は斯うである。今から三百餘年前のこと、未だチタがチタ河の彼岸にあつた時のこと、當時のチタは市中の凸凹が多く且つ河の彼方では他の部落との交通上甚だ不便が多いので現在のチタの在る場所へ新に町を建設し其所へ移るのが都合がよいといふことになり、態態露都から建設技師を此の極東の一寒村へ派遣することになつた。選ばれたる技師は未だ年若い青年技師であつて而かも最愛の妻は姙娠數ヶ月の身であつた。官命辭し難く意を決して任務に就くことゝなつたのであるが問題は此の妻の同行如何といふ點であつた。妻の兩親は異境に娘を送ることを案じたが蜜より甘い相愛の若い夫婦は片時だに相離れることが出來ないため技師は妻を籠に乘せ百餘の土工と共に愈よ首都ピタースブルグを後に極東に向つた。さて昔のチタに到着し技師は設計を立て工事に着手した。然るに不幸にも妻は流産をし其身も遂に重き病のために最愛の夫の手を握りつつ此の異境の地に果敢ない死を遂げた。技師の悲嘆は他所の見る眼も哀れなほどで數日の間は埋葬もせず亡骸を抱いて徒らに泣き暮れたのであつた

八

土工連に勵され遂に埋葬に決したるとき技師は最後の接吻を亡き妻の骸に與へ曾て結婚式の當夜妻が着飾つたところの晴衣を之に着せ又最上の首飾り指環をもつけて石棺に納め泣き泣き埋葬した。然るに其の翌日になつて技師は今一度妻の亡顔を見たくて堪らず土工の止めるも肯かないで再び石棺を掘り出し蓋を取り除けて見ると驚くべし、前日に着せた晴衣はもとより首飾り指環に至るまで一として其の影を止めず全部失つて居ることを發見したのであつた。茲に於てか技師は身も世もあられず泣き叫び更に數日間其亡骸を抱いて嘆いたが結局再び埋葬のこととなり今度は第二等の衣服を着せ殘つた指環等をつけて再び前の石棺に納め葬つたのである。而かるに其の翌日に至り前と同樣に今一度顔が見たいので再び掘り出して見ると亦亦全部剝ぎとられ僅かに亡骸は裸體のままに横はつて居たのであつたといふ。今は技師は心も狂はんほどに嘆き悲しみ遂に土工を指揮して現に僕等の面前に在る此の石造の家を造り其の中に墓穴を穿ちて其所に石棺を埋葬した。猶ほ技師は當分此家で閉ぢ籠り居るから日に一度宛パン及び水などを運ぶやうに土工に命じ其の身は此の家に在りて數日を暮して居た。土工は交代に毎日パンなどを運んで居たが十數日の後のこと、何時ものやうに食物を携へ來た一人の土工が外部から鐵製ドアを叩くけれどもこの日は應答がない、何時もならば必ず技師は内より錠を開きてドアを明けるに今日に限つてその事がないとは怪しいと土工は後方に廻はり鐵窓から屋内をのぞいて見ると更に人影がない。驚いて他の土工を招き寄せ附近を捜索したけれども固より發見せられなかつた。殊に錠は開けられないで其の儘に下りて居るのが鐵窓から能く見えるから屋内から外へ出た形跡は更にない、勿論窓を破つた形跡もない。これは悲嘆の極、技師は自らも妻の石棺中に入り其中に於て自殺を遂げたものであらうといふことに推定されたのである。爾來三百年今日猶昔の儘に保存されてあるのが卽ち此の墓家である。以上の傳説を聞き終つたとき僕は一種の恐怖に打たれ寸時も其所に止るのが厭になつたので急ぎ山根君を促して同君の宅へ引き上げた。

九

それから三日程は毎日のやうに役所へ行つてはモスコーからの返事がないかと質してみるが一向に何等の回答も來ないとのことで何時も失望しては山根君の宅へ引き返した。その間に一日何時ものやうに役所へ行くと今日は一つ新聞の主筆に面會せよとのことであつたので早速同じ建物の中の一室で頻りにペンを動かして居る主筆に面會したのである。新聞といつても露西亞には反對黨の新聞の存在は許さないのであつて何れも政府の御用新聞卽ち官報と同じいものである。而し論説もあれば雜報もあり廣告もある。此の主筆は英語が出來るとのことで山根君の通譯を俟たず直接英語で會話を始めたが成る程相當喋舌る。久し振りで英語で口を利いたので僕は大に得意になり意見か愚痴か解らないやうなことを盛んに並べると先生は稍や眞面目な態度で僕のロシアに就ての印象を語れと云ひ出した。對ロシアの印象や感想を忌憚なく云はせるならば固よりこの新聞の一頁位は忽ちに埋めることの出來る程度に而かも現にロシアの執りつつある所謂新經濟政策に對する批判を遣つけ完膚なきまでに論難するだけの自信は十分あるのであるが今の身の上では迂濶なことは言へないから、イエスとぱかりに口を極めて彼等の喜びそうなことばかりを次から次へと矢繼ぎ早に出鱈目にまくし立てたので遉がの官報主筆も破顔一笑、もうたくさんだとばかりサヨナラの握手を求めた。翌日の同新聞を見て山根君に讀んで聞かせて貰ふと僕の云つた通りのことが麗麗しく書き並べてあつた。併しこんなところにもロシア式の巧妙な遣り口は窺はれ得ると思つた。

十

今日は恰度四日目である。國家保安部から使が來て山根君と同道して出頭すべしとの通告である。連日の不安にヘトヘトになつた僕は氣が氣でなく食事もソコソコに山根君を促し例の役所へと出頭すると憲兵將校の面前へ引き出された。將校は徐ろに口を開いて先づ僕の氏名、年齡、身分等から何時伯林を出發し、何時モスコー到着、チタへ來た日時から今日までの經過を逐一訊問する、而かも其の間油斷なく僕の顔を凝視してゐる。山根君の通譯で一一明瞭に返答すると最後に將校は卓子の抽出を明けて一葉の紙片を取り出した。見ると其は旅行免狀である！僕が片時も忘れない僕自身の旅券である。彼は其を徐ろに僕に示し之れが君の旅券であらうとばかり押し開き之れさへ出ればモスコーからの回答は來なくとも卽時にでも國境を出て宜しいと宣言したのであつた。此の時の僕の心持は何と形容すべきか、今尙ほ此の時の感情を描寫するに適當な語を發見し得ないのである。將校の云ふ所に依ると恰も此の日の前日に於てチタ停車

場構内の郵便ポストの中に僕の旅券が其の儘に折り疊れて投函してあつたのを集配人が發見し早速保安部へ届出たのであるこいふ。尤も專用紙入れも又旅券こ共に其中に入れて置いた露國紙幣も發見されないので唯旅券だけが裸で此のポストの中に入れてあつたのださうである。如何な機會でチヨッキの内ポケットから取り落したのか或は摸掏られたのか其は今日猶僕自身には解らない謎である。併しながら僕は僕自身の過失によつて取り落したのを親切な露西亞國民の一人が拾り上げ嘸かし其の落主である此の旅券の持主は困つて居るここであらうこ同情し態態此ポストの中へ投り込んで呉れたものであるこ解釋して置きたいこ希望して居る、否な左樣に解釋すべきものであるかも知れぬこ思つてゐる。從つて露國民少くこもチタ停車場乃至は其附近に當時存在して居た露西亞國民の名譽のために苟にも摸掏られたなごこは斷じて考へないのである。何れにしても僕は旅券が再び手に戻つて來たので早速にトランクを纏め此の思出多いチタを後に山根君に心からなる感謝を爲しつつ滿州里に向つて無事出發するここが出來たのであつた。山根君へは歸朝後屢謝狀を出したのであるが今日まで先方からは何等の音信も來ない、當時同君は社會科學研究のため近近に英獨へ出かけたいこ云つて居たから或は既にチタを去つた後かも知れない。何れにしても恐らく一生に二度こあり得ない苦境に於て異境の一角に一個の同胞に依つて與へられたる慰安こ援助は僕の永久に忘れるここの出來ない又忘るべからざるの感激であり感謝である。（大正一四・五・二〇）

英國勞働運動史概說

十九世紀以來、資本主義の發達に伴うて多くの國國で發生した無産階級の運動が三つある。勞働組合運動こ協同組合運動こ社會主義運動こ即ちこれである。この中前二者——約して云へば勞働運動——の最も發達せるは英國であつて、その發達の跡を尋ぬるは極めて有益で又興味が深い。左にその入門的智識を供するものこして、**コール氏シラバス・シリイズ**の一編こしてものせる『英國勞働運動史』G.D.H. Cole: The British Labour Movement (Historical) を譯出する——譯者。

一　歷史的序說（—一七六〇）

今日我我の謂ふ勞働運動は、資本主義制度こ産業革命この子である。産業革命の名の下に知られてゐる時期（一七六〇年頃から一八三二年頃まで）以前に於ても勿論、階級分立こ階級敵對こは存在した。資本主義は十八世紀の中葉に突如こして起つたものでもなければ階級間の鬪爭がその時初めて生じたのでもなほさらない。英國に於ては、既に舊く一三八一年に農民叛亂（ベザンツ・リヴォルト）があり、中世を通じて地方に於ける『封建諸侯』の虐政に對する鬪爭が折折起つてゐる、そして程度は少ないけれごも、都市に於て商工業に從事する富者階級こ貧者階級この間にも鬪爭があつたのである。ギルド制度の下に於ては、職人が時時團結してその親方に反抗し、ギルドの末期には、富者こ貧者この間に屢階級鬪爭が行はれた。近代的意味の勞働組合運動さへも、幾つかの工匠組合に於ては、その歷史が産業革命以前十八世紀の初葉にまで遡る。然しながら、産業革命が、新らしき生産方法を導入し商業を世界的規模に擴大するここにより、勞働者を工場に詰め込み、多數人の生活を墮落させ、雇主こ雇人この社會的並びに經濟的距離を著しく增加する以前に於て、勞働運動が發達したこは云ふここが出來ない。新らしき資本主義狀態に對して勞働者を保護せんこする勞働運動が、徐徐に且つ艱難をなめて、發達したのは、十九世紀に入つて以來のここである。

二　産業革命（一七六〇—一八三二）

所謂『産業革命』の時期は次の諸事實を特徵こする。（一）市場が著しく擴大し、外國貿易の重要さが增したここ、（二）幾つかの發明がなされた結果、大規模な機械的生産が到る所で行はれ始め、動力が産業に應用され、水陸の運輸設備が著しく改善されたここ、（三）共同原野の大部分が圍ひ込まれた結果、新らしき農業生産方法が採用され、田舍の人の大多數が財産を喪ひ、從つて地方から都市への人口移住こなつたここ、（四）人口の變移や、主こしてイングランド北部にある新らしき産業中心地の新たな恐ろしい急劇な發達が起つたここ、（五）多くの種類の手工業が徐徐に若くは急劇に沒落したため、多數の勞働者が非常な困窮に陷つたここ、（六）外國の戰爭が英國に世界市場に於て早くから覇を唱へる機會を與へたここ、（七）フランス革命ここれに續いて生じた各地に於ける革命的感情こ不安の波が支配階級の苛酷な壓迫的手段に出會はしたここ、（八）一の新らしき階級——資本家階級——が擡頭して經濟的權力を握るに至り、その結果政治的權力の分配にも變更が生じたここ等即ちこれである。

一七八九年のフランス革命に續いて、歐洲到る所に不安が漲つた。英國にも亦この不安は生じたけれごも、然しそは大陸に比ぶれば僅かであつた。多くの勞働者を含む組合が、革命主義に共鳴して發生し、英國の政治制度の急激な變革を志した。これらの『對應組合』（コレスポンディング・ソサイエティ）中最も重要なるものはロンドンこグラスゴウにあつた。これらの運動こ一七九〇年のパン騷動こに刺戟され、英國に革命運動の起らんここを恐れた政府——殊にピットのそれ——は壓迫政策を採つたが、そは叛亂集會法發布の年たる一七九七年から一八二〇年までの間に於て特に劇しいものがあつた。一七九九年こ一八〇〇年の團結禁止法及び有名な一八一九年の六法（シクス・アクツ）は、民衆運動の組織的壓迫こ間諜の常規的使用こを包含する一般政策の一部分に過ぎなかつた。一八一五年の平和に續いて起つた經濟的不景氣の時期には、多くの暴動が勃發し、そは屢機械に對する『リュウダイト』の襲擊こ一緒に行はれた。有名なピータルーの虐殺こ六法こは、壓迫時代の最高頂を劃してゐる。

團結禁止法は暴虐なものであつたけれごも、勞働者階級は、その廢止のため大努力を行はんこ一致の行動に出づるここは未だ出來なかつた。從つてその廢止の運動は主こして、これを他の階級に於ける同情ある人士の手に俟たなければならなかつたのである。この法律に對する攻擊は『急進的な仕立屋』フランシス・プレースこれが魁をなし、下院に於てはジヨセフ・ヒュームこれが先導こなつた。この攻擊は凡ゆる人の豫想以外に成功し、一八二四年に團結禁止法は全く廢止されて了つたのである。然しながら、廢止に續いて、同盟罷業こ不安こが極めて急劇に起つたので、一八二

五年には前年の法律に代つて一層非自由的な手段――勞働組合の自由になほ極めて大なる制限を附するもの――が採られることとなつた。然し單に團結するだけの權利は得られた、そして勞働組合は、プレースや他の禁止法廢止論者が、組合は賃銀を上げさせる力がないとの當時の經濟學說に從つて、團結の自由が與へらるる時は組合は共濟組合として以外存續しなくなるだらうと主張したにも係らず、追追發達し初めた。茲に注意しなければならないのは、團結禁止法の下に於ても、多くの組合が秘密裡に若くは共濟組合の假面を被つて存在し、團結した勞働者の訴追が行はれたと云ふことである。雇主も亦團結すれば法律上處分されることとなつてゐたけれども、かかる罪を犯したため雇主が處分された例は一つも記錄されてゐない。雇主は、この時期全體を通じて、公然と團結してゐたのである。

勞働組合運動は、この時期には何等大なる注意を惹かなかつた、この頃は政治的改革の運動が全盛であつたから。製造業者と勞働者階級と兩者から後援されたこの政治的改革の運動は、勞働者が重要な役割を勤めた最初の大きな社會的運動であつた。井リアム・コベットの著書と殊に彼の出した新聞とは、初めて勞働者階級の意見を眞に覺醒せしむる大きな要因となつた。然しながら、勞働者階級の後援によつて主として成功した運動の後、一八三二年に選擧法改正法が遂に通過した時、自分はなほ選擧權を賦與されてゐないのを勞働者階級は見出したのである。

三　オウェニズム・チャーティズム及び穀物條令（一八三二―一八四八）

選擧法改正法が通過すると、殆んど間なしに一大產業的危機――英國勞働組合の最初の大衆運動が起つて來た。選擧權なき勞働者は、政治運動より產業運動の方面へ轉向し勞働組合運動は急劇な大膨脹を遂げた。既に一八二九年に、紡績工は一の全國的組合を作つてゐたし、一八三〇年には、總ての勞働組合を結合して勞働保護全國組合なる單一團體たらしめんとする最初の眞の企圖がなされてゐた。然しながら、この兩團體は間もなく瓦解し、その大部分を構成してゐた各種の局地的組合のみが殘つた。一八三二年には建築工組合が設けられたが、その綱領中に述べられた抱負は、今日の建築ギルドのそれと近きものがあつた。一八三四年に至つて勞働同盟全國大合同（グランド・ナシヨナル・コンソリデテッド・トレーヅ・ユニオン）が出來た。それは、一部分は多數の局地組合の加入により、一部分は農業勞働者や女子や以前には組合のなかつた各種の勞働者から新加入者を募集したことにより、數週間の中に七十五萬の組合員を擁するに至つたと號したのである。生產統制權を勞働者の掌中に收める目的でこの團體の計畫した大きな總同盟罷業は、決して起らなかつた。大合同は、全國到る所でまだ期の熟しない部分的罷業――その雇人は『勞働同盟（トレーヅ・ユニオン）』より脫退すべしと主張した雇主が屢起さしめたもの――に間もなく捲き込まれたからである。それのみでなく、猛烈な襲擊が法律によつて組合員へ加へられた。最も有名なのは、一八三四年のドルチスタ勞働者の事件であつて、これらの人人は不法な誓ひを立てたと云ふかどにより七年の流刑に處せられたのである。やがて、財源の涸渴と內部の軋轢とにより、大合同は瓦解し初め、一八三四年には事實上消失した。最初の大產業勞働者階級運動は、かくして不名譽な瓦解に終つた。一擧にして資本主義を殲滅し、その跡へ新社會を建設するための組織として の勞働組合運動は崩壞した、然し大合同に加入してゐた局地組合は多くの場合殘存し、近代の全國的勞働組合運動の核心となることとはなつたのである。

『全國大合同』は、主としてロバト・オウェンとその一派の思想の影響を受けてゐた。理想主義者にして實業家、最初の工場改良者、恐らく自ら『社會主義者』と稱した最初の人で且つ多くの點から見て協同組合運動の父であつたロバト・オウェンは、勞働組合運動と密接な關係を持つに至る遙か前から、社會理論家としてよく知られ廣く影響を及ぼしてゐた。自ら雇主たる彼は、ニユウ・ラナークにある自己の工場に於て、仁慈的原則が工場に適用され得ること、そが能率を增進せしむることを示した。政治的運動に信を置かない彼は、產業制度の根本的變革の必要――競爭に代ふるに協同を以てし、獨裁的統制に代ふるに產業的民主制を以てするの必要を感じた。協同組合が初めて發達したのは主として彼の影響によつたのである。尤も、協同的殖民地の創設を含む彼の理想は、現代の協同組合のなすところとはかなり離れたものではあつたけれど。彼の弟子は、殆んど凡ゆる當時の勞働者階級運動に重要な地位を占めてゐた。

全國大合同の崩壞も、割合に強く感ぜられなかつた、勞働者の注意は既に他の運動の方へ向きつつあつたからである。その經濟政策は極めて不明瞭なものではあつたが然も近代的社會主義の先驅者と見てよいチャーティスト運動は、選擧法改正法の直接の結果であつた。その綱領は純粹に政治的なものであつたけれども、その目標は全然社會的なものであり、その背後の原動力は主として經濟的なものであつた。殊にイングランド北部に於ては、主たる要因は選擧法改正後の一八三四年の議會が通過せしめた新救貧法に對する嫌惡であつた。チャーティスト運動は又、『產業革命的』變化によつて惹起された凡ゆる經濟的不安と、初期の『社會主義』經濟學者（ブレイ、トムスン、ホッヂスキン等）やその弟子の著書に基く理論的支持とからその力を得來つた。ブールジョア急進主義者が多少加はつてはゐたけれども、そは本質的には何處までも一の勞働者階級運動であつた。そしてそればかりではない、そは大部分反資本主義運動であり、又プロレタリアの蜂起てふ意味では全く社會主義運動であつたのである。チャーティストの運動は、これを二期に分つことが出來る。第一期は、一八三九年の下院に於けるチャーティスト請願の否決とこれに續く大大的な壓迫拘引とに終りを告げる。第二期卽ち『四十年代』の復活の時期は、各派內の軋轢の增加を特徵とする、一八四二年の請願の後には、大きな內輪揉め殊に『道義派對物力派』の爭が起つた、そしてこの軋轢は運動が全くファーガス・オーコンナの勢力下に置かれると共に增して來た。多くのヨーロッパ諸國に革命運動の起つた年である一八四八年に、今一度大請願が提出された。然しこの以後チャーティズムは漸次消滅した。

チャーティスト活動の第二期に於ては、そは穀

物條令廢止運動と相並んで、否屢屢これに猛烈に反對して、進んで行つた。この穀物條令廢止運動は、製造家側の後援を得てゐたのであるが、チャーティストは屢屢これを賃銀を値下げせんとする資本主義運動だと非難したのである。然しながら、自由貿易運動は廣く一般の支持を得た、そして穀物條令は一八四六年に廢止された、尤も豫期された農産物價格に對する影響は直ぐには現はれなかつたけれど。『飢えの四十年代』は非常な勞働者階級困窮の時期で、當時の如何なる民衆的運動もこれを除く力を持たなかつたか、除く力が足りなかつたのである。

四　『新典型』、勞働組合運動及び協同組合（一八四八—一八八〇）

チャーティズム凋落後の時期は、略ぼ近代的な形を具へた勞働組合運動と協同組合とが起つて來た時期である。ロッチデール開拓者協同組合は一八四四年に開業した、そしてこの組合が『購買高を標準とする配當』の方法を採用した最初の組合たると否とを問はず、今日の協同組合運動はこの時期から起つたのである。取引上の目的から局地組合が設けた協同卸賣組合は一八六三年に設立され、運動の宣傳的並びに教育的事業を代表する協同組合同盟（コーオペラティヴ・ユニオン）は一八六九年に設立された。この時期を通じて、相互取引の一方法としての協同組合は急劇に發達した。然しながら、それは、當時の勞働組合運動と同樣に、前の時期の革命的野心を排して、全く改良主義的な温和な方針の下に發達したものである。

この時期に於て、勞働組合運動は徐徐に再び全國的運動に築き上げられつつあつた。『全國大合同』の崩壞の後に殘存したのは大部分、單一職業（クラフト）の勞働者から成る局地的な組合のみであつた。これらの團體の指導者等は、彼等のより廣大でより革命的な野心を棄てて、それらの組合を温和な本質的には防禦的構成を持つた組織——共濟的な手當を供することをその主要目的とするもの——に變えることに着手した。同盟罷業は非とせられた、そして單一職業よりも廣い基礎に立つ組織の試みは怪訝の目を以て眺められた。一八四五年、あらゆる職業に於ける組合を調整せんとする試みがなされ、勞働保護のための聯合職業全國的組合が設けられたけれども、この新團體の期するところは、ルーズな諮問委員會たらんとすることで、攻勢的な大衆組織たらんとすることではなかつた。勞働組合は團體としてはチャーティスト運動に殆んど加はらなかつた、尤も多くの勞働組合員が個人としてこれに加はつたのは勿論であるけれど。一八五〇年から五一年にかけ、最初の大全國的合同組合たる機械工合同組合が、『熟練機械工の局地的組合の大部分の合併により設立された。その構成と規約とは、その後同樣にして作られた他の全國的職業組合に對する『新曲型（ニウ・モデルズ）』となつた。大工及木工合同組合は一八六〇年に設立された。かくして勞働組合運動は、一八三四年の崩壞から完全に回復した、そして運動は再び勢力を得て來た、尤も各組合は、爭議の際に時時助力する場合あるを除き、多少相孤立してはゐたけれど。一八五八年の頃から以後、主として特種な目的のための一時的團結の結果として、常設的な勞働評議會が大都市に出來始め、一地方の局地組合とその支部とを連結した。ロンドン勞働評議會は一八六〇年に設けられた。勞働評議會は、あらゆる職業を含む聯合的勞働運動を設置せんとする試みの最初の復活を表すものである。

勞働組合運動の示した進歩は、法律を以てする新たな攻擊のシグナルであつた。團結禁止法の廢止によつて與へられた保護は極めて不十分であつた、そして多數の勞働者がその雇傭を去るに際して契約違反を以て罰せられ又は他の罪によつて苛酷な言渡を與へられた。勞働組合運動はそれ自身何等法律上の保障を持たなかつた、そして共濟的目的のため莫大な基金が出來て來ると共に、このことは極めて重大な問題となつた。法律を以てする勞働者攻擊は、全勞働組合運動が抵抗のため相聯合せんとする要求を刺戟した。一の特別大會——殆んど全運動を代表するものとしては最初のもの——が、一八六四年にグラスゴウ勞働評議會により招集された。同じ年に、カール・マルクスの主唱の下に（第一）國際勞働者協會（インターナショナル）がロンドンに設けられた。英國の勞働組合指導者等が最初はその中で大きな役割を勤め多數の勞働組合や勞働評議會がこれに加盟した、然しそが革命的社會主義團體としての旗幟を更に鮮明ならしむるや、比較的温和な勞働組合指導者等はそれから脱退した。丁度この頃（一八六四—五）、幾つかの職業に於ける雇主が幾回かのロック・アウトをやつたので、一八六六年にこれが對抗策を講ずべく第二回の勞働組合大會がシェフヰールドで開かれた。同年、支配階級の注意を一層勞働組合運動に向けしむるに至つた、あの有名なシェフヰールド事件が勃發した。『ラットニング』や『サボタージュ』即ち機械その他の破壞の事件が起つた。勞働組合運動阻止の目的で一の調査が行はれた。然し一八六七年の王立委員會は、それらの出來事が全く例外であることを明かにした。その結果は勞働組合運動を完全に辯護することとなつた。十餘年の間既に勞働組合運動の指導者と認められて來てゐたヰリアム・アラン、ロバト・アップルガスその他『ジュンタ』の名で知られてゐる一團の爾餘の人人が、一八六七年創立の合同勞働大會を通して活動することにより、委員會報告の正しきを示した。同じ年、主從法が初めて契約違反に就いて同一の地位を雇主と勞働者とに與へ、同盟罷業により契約に違反した勞働者を體刑を以て處罰することを廢止した。一八六八年、最初の常規的な勞働組合會議が開かれた、然し『ジュンタ』の多くの人人は、統一が鞏固になり最初の勞働組合會議議會委員會の任命された一八七一年までは、これに加はらなかつた。王立委員會調査の結果は一八七一年の勞働組合法となり、組合の法律上の地位は確保さるるに至つた。然し同じ年に出た刑法改正法はピケティングを禁じたり他の制限を加へたりしたから、折角の收穫も甚だ效果薄きものとならざるを得なかつた。續いて一大運動が起り、一八七四年の總選擧には多くの勞働組合員が立候補し、坑夫組合の幹部たるティ・バート及びエイ・マクトナルドとが代議士となつた。やがて自由黨政府は倒れ、これに續く保守黨政府から勞働組合は一八七五—六年の諸法律を得た。これらの法律は組合の地位を著しく改善し、勞働組合運動に確乎たる法律上の地位と行動の自由——一

九〇二年のタッフ・ヴェール事件のときまでは申分なかつたもの——とを與へたのである。これらの成功は、都會の世帶主に選擧權を與へることにより初めて大きな勞働者階級選擧民をつくつた一八六七年の選擧法改正法により非常に容易にされたのである。

かくて、この時期に於ては、協同組合が驚くべき速度と成功とを以て發達した。大きな全國的勞働組合が幾つかの職業で設けられ、勞働組合の法律上の地位は確保され、勞働組合會議が創設され、勞働組合の代表者が議會に現はれたのである。工場法その他の産業的立法の方面でも著しい進歩を見た。重要な運動で、起ると間もなく消滅したものが一つある。一八七二年に、ジョセフ・アーチの主唱の下に設けられた農業勞働者組合これである。それは暫らくの間極めて大きな成功を收めたが、間もなく消滅した。この時期の大部分を通じて、勞働組合運動は、『ジュンタ』や坑夫組合の幹部を含む一團の指導者——愼重な注意と制限された眼界とを驚くべき行政的手腕に結びつけた人人——の統率するところとなつてゐた

五　社會主義及び新組合主義（一八八〇—一八九二）

法律の承認を得んとする勞働組合側の努力が效を奏して數年後、一八七九年の大きな産業的竝びに商業的恐慌が來た。不景氣は勞働組合運動に重大な影響を與へたけれども、その時には既に運動はそのまま殘る程十分鞏固になつてゐた。然しながら、八十年代の初期は勞働組合運動史上餘り重要な時期ではない、一時的頽勢の後組合數と組合員數とは引續き增加してはゐたけれど、運動の方針は、本質的には平和的なもので、法律上の地位を認められて後は、進取の氣象を缺くものであつた。主として熟練職工から成つてゐた組合は、共濟組合にまで干上らんとする傾向を示した。精精で、資本主義下の組合員を保護せんと努めたに過ぎず、資本主義制度全體に挑戰せんとするやうな大きな野心や考へを毫も持たなかつたのである。然しながら、法律上の改革を得る方面で、殊に坑夫によつて、著しい進歩が示された、その最高頂をなすものは一八八七年の鑛山法（マインズ・アクト）である。

他方に於て、八十年代の初期は、英國に確乎たる社會主義運動が初めて——短命だつた第一インタナショナルは暫らく措き——現はれた時期として注目に値する。七十年代の末頃、大都會殊にロンドンに於ける急進クラブが著しく發達し、目ざましい活動をした。一八七九年には、アメリカの『單税』論者ヘンリ・ジョージが『進歩と貧困』を出した。この書は、社會主義宣傳の道を開くに與つて力があつた。然しながら、社會主義運動が出現したのは、全然マルクス派的な勢力の下に於てであつた。一八八一年に民主聯盟（デモクラチック・フエデレーション）——一八八四年社會民主聯盟となる——が、主として比較的進んだロンドンの急進クラブを基礎として設立された。ハインドマンの率ゐるこの社會民主聯盟は、英國に於て現はれた何等かの大いさを持つた社會主義團體としては最初のものであつた。初め社會民主聯盟に入つてゐた井リアム・モリスは、一八八五年これを去り、社會主義同盟（ソシアリスト・リーグ）——その後事實上は『無政府主義』同盟になつた——を創設した。温和な『滲透（パーミエーション）』政策を採るフェイビアン協會は一八八四年に設立されてゐたが、それが何等かの勢力を振ふに至つたのは一八九〇年の『フェイビアン論文集（エセイズ）』出版以後のことである。社會民主聯盟と、程度は少ないが社會主義同盟とは、英國社會主義の先驅團體であつた。人人は屢これを輕視するけれども、社會主義運動に於ける井リアム・モリスの思想と活動との影響は、當時の創成の時期に於ては、極めて重要なものであつたのである。

外國に於ける勞働者階級間の新らしい考へが間もなく勞働組合運動にも影響を及ぼして來た。これまでは、鑛山業を除いて不熟練勞働者の大群は全く無組織であつた、そして勞働組合運動の指揮者達から『組織不可能なもの』と考へられてゐた。社會主義者が階級鬪爭の思想と凡ゆる種類の勞働者間に於ける目的利害の一致の思想とを高調し始めるや、勞働組合運動に就いての舊い考へは、新思想の洗禮を受けた人人を最早滿足させなかつた。社會民主聯盟は、勞働組合運動をその八十年代の初期の指導者によつて判斷し、何等これに有效な反資本主義的活動の望みを囑せず、從つてその綱領中全然これを無視し去つてゐたけれども、社會民主主義者中の或る者は間もなく組織なき不熟練勞働者間に運動を起し、これに反抗精神を皷吹せんとする仕事を開始した。ガス勞働者組合や雜勞働者組合の如き新組合が發生し、幾つかの同盟罷業が行はれた。その中最も重要なのは、一八八九年のロンドン・ドック同盟罷業で、それは一般に勞働組合運動史上主要なる一新時期を劃するものと看做されてゐる。トム・マン、ジョン・バーンズ、ベン・ティレット等の指揮せるこの運動は、普く世の同情を惹き、寄附金がドンドンと流れ込んで來た。これらの同情と罷業者間に漲つてゐた精神との結果、この罷業は大勝利を得たのである。この罷業の結果、ドック人夫組合が出來た、そしてこの組合は、ガス勞働者組合と共に、一大組織運動の魁となつた。かくして不熟練勞働者は、彼等にその組合門戸を開放しやうとしない熟練勞働者と離れて、別に組合をこしらへた。實に舊派の勞働組合指導者等の一般的態度は、新組合を以て、一時的興奮の過ぎるや否や消え去るべき暫時的發生物と看做すにあつたのである。然し、數年後組合員に大激減が起つたとは云へ、新組合は存續するの力を持ち、『不熟練』勞働者は確乎として勞働運動上自己の役割を勤めることとなつて來た。間もなく新らしく起つた社會主義精神と勞働組合員の質の變化とは、勞働組合會議の態度に著しい影響を與へ、該會議は一時相敵對せる分派の爭ひの舞臺となつてゐた。

協同組合運動は、この時期に於ても、自己の領域内でなほ著しい進歩を遂げた、然しそれは、社會主義の到來によつても將た又勞働組合を刺戟せる新精神によつても、事實上何等の影響を受けなかつた。その記錄は、確實なる取引の增加發展の記錄であり、卸賣組合の急劇なる發達の記錄であつた。そして協同組合運動は、政治にも又廣い意味の勞働運動にも少しも參加しなかつたのである。

田舍に於ける世帶主に選擧權を與へた第三回の選擧法改正法は、一八八五年に通過した。

（未完）（T・Y生譯）

マーシャル傳　その二

Alfred Marshall (1842-1924)

A Memoir by

John Maynard Keynes

戸田省三抄譯

此の傳記はケインズ氏が昨年九月のイコノミック・ヂャーナル誌に掲載したものであるが後に飜刻せられて一小册子となつた。マーシャル未亡人は、マーシャルの死に際し本學宮島教授の寄せられた弔辭に對する答禮として右小册子をマーシャルの寫眞等と共に送られた。

三

マーシャルの經濟學說の發展して來た經過を解說するのは困難な仕事である。と云ふのは彼が最初學說を發見し口頭で弟子に傳へた時と、最後に著書として外部世間に發表した時との間には長い間隔があるからである。彼の學說を解說する前に彼の外部的の經歷——一八六八年ケンブリッヂのセントジョンズコリッヂの講師に任命されてから一八八五年ケンブリッヂの經濟學の講座を擔任するまでの——を簡單に述べるを便利とする。

マーシャルはセントジョンズの講師の職に止ること九年、其間に於て彼の專攻學科の基礎を築きつつ何物も公にせなかつた。彼はグロート・クラブに入會して以來クリフォード及びモールトンと特に親密であつた。其の中でクリフォードは『あまりに人を驚かすことを好んで居た』けれども一番の仲好しであつた。彼は少し後に "Eranus" の會員としてシヂウィック、ヴェン、フォーセット、ヘンリ・チャックスン、其他ケンブリッヂの第一解放時代の領袖連と接觸した。此の頃彼は長い休暇には殆んど常に海外に行つた。マーシャル夫人は書いて居る。

『彼は六十ポンドの金と背嚢とを持つてアルプスを踏破することに多くの時を費した。毎夏の此の山登りが弱かりし彼の身體を强くした。彼は疲れた過勞した樣子で六月早早ケンブリッヂを出るのであつたが、十月には日に燒けて頑强になつて歸つて來た。背嚢を脊負ふ爲に姿勢がよくなり八十を過ぎるまで腰が曲らなかつた。彼は當時に於てさへ姿勢をよくする爲めに隨分苦勞をしたものだ。アルプス踏破中は六時に起き八時になるまでに出立するを常とした。彼は背嚢を脊負つて二三時間步き、それから何處かに、時には氷河の上に座つてゲーテ、ヘーゲル、カント、スペンサー等の本をしばらく讀み、それから次の夜營所まで又步くと云ふ習慣であつた。之は彼の所謂哲學時代の事であるが其後彼の貿易論の理論を作り上げたのも此の紀行に於てであつた。書籍其他を入れた大きな箱は驛から驛へと送つたが。然し背嚢のみを持つて一週間以上も步くのが普通であつた。シャツはいつも山間の谷川で洗ひ金剛杖に掛け其を肩にのせて步きながら乾かせた。彼は其の深遠な思索の多くを此の孤獨なアルプス紀行中に於て爲した。

此の遊歷修業時代以來彼は常にアルプスを愛し一九二〇年(之が最後であつた)に於てすら南チロールに行き其處に滯在して研究した。

アルフレッドは常に野天で善い研究をした。彼がセント・ジョンズの學員になつた頃には主として午前十時から午後二時迄及び午後十時から午前二時までの間に思索をした。實際彼は晝間は僧庵の靜寂を專にした。パレルモに於ては靜かなホテルの屋根に天幕を張つて勉强し、オクスフォードに於ては庭に「洞窟」と自ら呼んだ小屋を作つて其中で研究し、ケンブリッヂでは露臺や、「箱舟」と稱せられた廻轉小屋で勉强した。又チロルでは石を堆み上げ椅子と空氣枕を備へ之を「玉座」と戯れ、又後にはいつも天幕を携へて行き其の中で暮した。

◈

マーシャルは一八七五年に米國を訪問した。僅かに四ヶ月間の滯在であつたが東部全體を巡歷し又サンフランシスコまでも行つた。此間ハーヴァード及びエールには可成り長く滯在して經濟學者達と交驩し又到る處名士と面會した。然し彼の主たる目的は此の『新國に於ける保護政策の問題を研究』するに在つたのである。當時彼は全力を擧げて調査研究を爲し旅行の終頃本國への手紙に次の如く書く事が出來た。『私はフィラデルフィアで暫く主だつた保護論者と會談した。而して彼等の推稱する書籍も若干讀んだ。今や私は此の問題の眞相に觸れ得たやうに感ずる。此の問題に關し私と同じ意見を吐き得る英國人は過去は勿論現在に於ても在るまいと思ふ。』

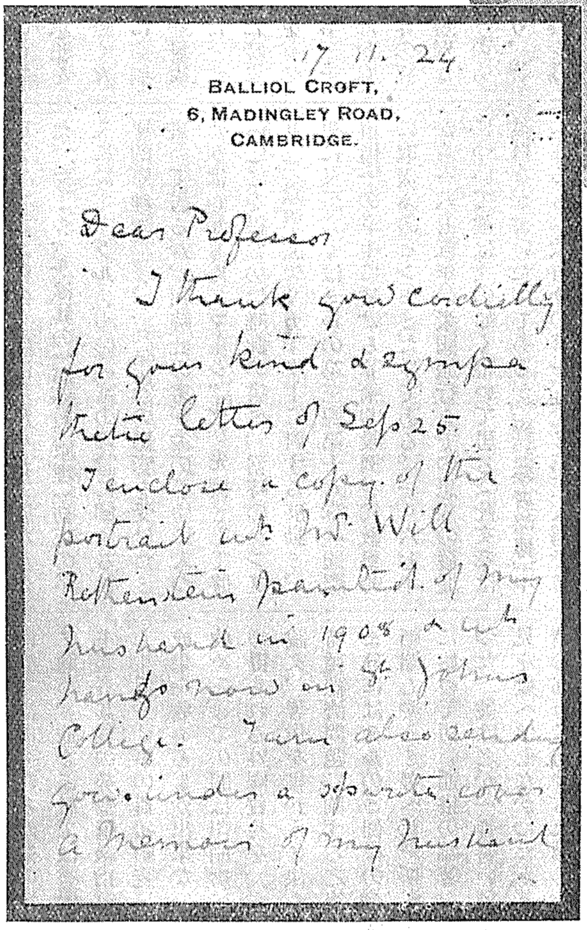
歸國後彼はケンブリッヂ道德學俱樂部で米國の產業に關する講演を爲し、又一八七八年にはブリストルで『米國の經濟狀態』なる題下に講演した。此の米國紀行は彼に偉大な印象を與へ其後の彼の事業に一種の色彩を與へた。彼は常に『私は此の旅行で知つた事は無論多多あるがそれよりも重大なのは何んな事を知るべきかを了解するに至つた事である。又物事を比例的に考へる事を教へられたのみならず米國が將來大を爲す原因を知り其の發達の方向を豫測する事が出來た。』と語つた。

當時彼はフォーセット教授及びヘンリ・シヂウィックを助けて經濟學をケンブリッヂに於ける重要學科たらしめんと勉めた。彼の最初の弟子の中にはフォックスウェル氏があり又少し後れて私の父ジョン・ネヴィル・ケインズがあつた。父は一八七五年に精神科學科の卒業試驗に合格し經濟學の講師としてシヂウィック、フォーセット及びマーシャルの三名に加はつた。

マーシャルは一八七六年に夫の有名な副僧正の曾孫に當るメアリ・ペイリ孃と婚約するに至つた。ペイリ孃は以前に彼の弟子であつた人でニューハムで經濟學の講師をして居た。彼女はニューハム・コリッヂの設立前に、シヂウィックの計畫になるクラフ孃指導の研究會に通つて居た人で一八七四年にケンブリッヂ女子高等教育促進協會の學生として一八七四年に精神科學科の卒業試驗を受けケンブリッヂの學位を得た才媛である。一八七九年に出版されたマーシャルの最初の著書は彼女との共同著作であるが、最初ケンブリッヂ大學學外講義聽講生の需めに應じて彼女が企てたものであるから實は彼の著でなくて彼女の著である。二人は一八七七年結婚した。四十七年間の結婚生活に於て彼が彼女の獻身的內助に負ふ所は極めて大である。彼女は非常な沒我

と理解とを以て彼に仕へ彼の事業を助けた。我我門弟友人は此の二人を別別に考へる事は出來ないし又彼の智的業績に於て彼女の優雅な天性が如何に重大な役割を演じて居るかを思はざるを得ぬ。

結婚によつて學員たる地位を失ふに至つたので彼は一時ケンブリッヂを去つてブリストルに趣きユニヴァーシティー・コリッヂの第一回の校長兼經濟學教授となつた。マーシャルは此の當時の事を次の如く書いて居る『此のユニヴァーシティー・コリッヂと云ふのはオックスフォードのベリオル・エンド・ニュー・コリッヂの計畫に係るもので其の目的とする所は大學の無い大都市の住民に高等教育を受ける機會を與へやうと云ふのであつた。私は最初の校長に選ばれ、妻は午前に主として婦人から成る組に經濟學を講じ、私は夕方に主として若い實業家から成る組に講義をした。』マーシャルは正規の授業の外に夜間公開講演をしばしば爲した。ヘンリ・ジョージの著『進歩と貧困』に關する繼續講演の如き其の最も重要なものである。ブリストル市民はマーシャルの事業を認め彼が其處を去つて後も長く關係を保つて居た。然し校長の役目たる經營的な仕事、殊に基金の少い學校の寄附金を募集する仕事は彼の困難とし不快とする所であつた。加ふるに結婚後、主として腎臟結石の爲めに健康と神經とが壞れ始めたので彼は校長の地位を退めやうと望んだが一八八一年まで其の時期を得なかつた。同年ラムジ教授が化學部に任命されたのでここに適當な後繼者を得、遂に辭職した。そこで妻と共に相携えてイタリーに渡り約五ヶ月間はパレルモの小さいホテルの屋上で靜かに勉強しそれからフロレンス、ヴェニスへ移り前後約一ヶ年滯在した。校長は退めたが尚經濟學の教授であつたので一八八二年稍健康を回復してブリストルに歸つた。此頃以來其死に至るまで彼は幾分か憂鬱になり自ら虛弱者であると考へ勝であつた。實際は極めて强健で極く老境に入るまで著作者として働き續けたが然し彼の神經は非常な勞作、昂奮、論爭、意見の相違等によつてよく平衡を失ひ、又希望通り難かしい思索に長く精神を集中することが出來ず、氣分の如何によつて常に日課を變へる樣になつた。事實彼は其の前に展開せる研究領域の廣大さと、着想して未だ世に發表せざる著作の構想の偉大さとに比してあまりに自己の體力、精神集中力の貧弱なるを感じて惱んだものである。一八七七年即三十五歲の頃までに彼は人類に重大な關係を有する一新科學と云つたやうなものの基礎を心中に作り上げて居たのに、其後五年に亙る健康と精力の衰退は其を世に發表することを妨げ稍彼の英氣を阻んだが然し彼の決心のみは搖がなかつた。


17. 11. 24
BALLIOL CROFT,
6, MADINGLEY ROAD,
CAMBRIDGE.

Dear Professor
I thank you cordially for your kind & sympathetic letter of Sep 25.
I enclose a copy of the portrait w. Mr Will Rothenstein painted of my husband in 1908, & wh hangs now in St Johns College. I am also sending you under a separate cover A Memoir of my husband

故マーシャル教授（上）と本學宮島教授からの弔辭に對するマーシャル未亡人の謝狀の一部（下）

ブリストルのユニヴァーシティー・コリッヂの理事者中にはベリオル校長のヂャウイット博士及びヘンリ・スミス教授があつた。此の二人はブリストルに來る度にマーシャルの家に宿泊するを常とした。ヂャウイットは經濟學に對して非常な興味を有し、ベリオルの助手時代には經濟學の講義を爲した事があり死するまで經濟學の學生の指導を爲した人である。理事會後の長い歡談によつてヂャウイットはマーシャルを非常に信愛するに至り、一八八三年アーノルド・トインビーが逝折するや其の後任としてマーシャルをオックスフォードに招聘し印度の官吏たらんとする人人に經濟學を講ぜしめた。

彼のオックスフォードに於ける經歷は短くはあつたが成功であつた。彼は秀英な門弟を引きつけ其の講義には彼の生涯中の他のどの時代よりも多數の熱心な聽講者が出席した。彼は其間別別な機會に於てヘンリ・ジョージ及びハインドマンと論爭を交へて名聲を博し、大學に於ても重きを爲しつつあつた。然し一八八四年十一月フォーセット死し、彼は一八八五年一月ケンブリッヂに歸り經濟學の教授となつた。

四

マーシャルは一八六七年に經濟學理の研究を始め、一八七五年の頃其の特異の學說は既に餘程發展した域に達して居たが一八八三年の頃に至つて最後の形に固まつた。其れにも拘

らず彼は少しも其の著作を纒まつた形で世に公にせず一八九〇年に至つて漸く『經濟學原理』を出版した。彼が最も夙く研究を重ね一八七五年頃既に完成して居た題目は此の著書の中には取扱はれて居らず約五十年後の一九二三年に出た著『貨幣、信用及び商業』の中で始めて發表して居る。此の間彼は其の思想を隱さず、講演、談話の間に於て惜げも無く友人、子弟に分ち與へた。彼の學說は私に印刷したパンフレットや門弟の筆を通じて一層廣く漏れ傳はり又檢閲官に引拔かれもした。かくの如くであつたから著書が出版された時にはもはや其は新機軸こ局面轉換的勢力を有せぬものこなつて居た――著書の出づる事三十年早かりしならば之を有したらんに！だから著書のみによつてマーシャルを知る世界の經濟學者達は、何故に英國の學者が彼に特別な地位を與へるかを了解するに苦しむであらう。故にここに彼の思想發展の跡を辿り、著書の公刊が不幸にも遲延した理由、辯解を爲す事は――材料の少い爲めに不完全たるを免れずこするも――無用の業ではあるまい。

マーシャルが本氣に經濟學を研究し出したのは前述の如く一八六七年であつた。當時の經濟學界を一瞥すれば、ミルの經濟原論は一八四八年に出て一八七一年には第七版を重ぬるに至つた。ミルは一八七三年に死んだのだから之がミルが訂正を施し得た最後の版であつた。マルクスの『資本論』は一八六八年に、ヂェヴォンズの『經濟學原理』は一八七一年に、メンガーの『經濟學原理』も同じく一八七一年に又ケアンズの“Leading Principles”は一八七四年に出版された。だからマーシャルが研究を始めた當時はまだリカードこミルこが有勢で定說であつた。他の重要な勢力こしてはマーシャルがしばしば語つたロシャー位なものであつた。數學的方法を應用する考は廣く行はれては居たが、取立てて言ふ程のものは未だ生れて居なかつた。マーシャルは其の『經濟學原理』初版の序文に於て、クルノーの『富の理論に關する數學的原理』(一八三五年版)の影響を受けたこ書いて居るが、何時此の書が彼の手中に入つたかはわからぬ。マーシャルが先例こして據るこごを得たのは唯此の書こ、當時のケンブリッヂ數學派のリカードーに對する反動こ、更に又恐らくはミルの第三編第十八章『國際價値』の章中に於ける算術的設例を代數學的に取扱ふのヒントこだけである。一八六七年から一八七五年の米國旅行までの思想の發展について彼は次の如く書いて居る。(此文章は彼自身が書いたのであるが『經濟學者略傳』中に在るもの故自分の事を『彼』こ第三人稱で書いて居る)

『彼がまだ數學を敎へて居た頃(一八六七年)彼はリカードーの推理を出來るだけ數學に移し植えやうこし又其推理を一層普遍的にしやうこ勉めた。それから彼はロシャー其他の獨逸經濟學者及びマルクス、ラッサーレ等の社會主義者の採る經濟學上の新しい見解に引きつけられた。然し彼は歷史派經濟學者の分拆的方法は、彼等の所謂經濟現象の原因が眞の原因たる事を充分に證明するものではないこ思つた。實際彼は、經濟的な過去を說明するここは未來の豫言を爲す事こ同樣に困難であるこ考へた。又社會主義者は自分達の問題を輕視し、且つ私有財產の撤廢が人間性の缺陷や不完全を一掃するこ考へるのはあまり輕卒であるこ考へた。

そこで彼は實際の仕事及び勞働階級の生活に一層密接に接觸しやうこつこめた。彼は一方に於てはあらゆる產業の技術的特徵を知らうこ勉め、他方に於ては勞働組合主義者、協働主義者其他の勞働階級指導者こ交はつた。然し生活や仕事の直接研究によつては數年間は成果を收める事が出來ないのを知り、成果を收めるまでの間は印刷物に其の主要材料を求め得られる外國貿易を　ら研究し其に關する論文、著作を書かうこ決心した。彼は其後、特種經濟問題に關する之等單行論文を集めしまひにはミルのこ同樣の範圍の總括的論著に壓縮しやうこ考へた。斯樣な論著を書いた後に始めて短い通俗の論著を書いてもよいこ思つた。彼は之が一番善い順序であるこ云ふ意見を變へはしなかつたが其の計畫は諸種の事情の爲めに妨げられ殆んご覆がへされた。彼は實際外國貿易に關する單行論文を起草し一八七五年には新國に於ける保護政策問題を研究する爲めに米國產業地を巡歷した。が然し此の仕事は結婚の爲めに中止せられた。又妻こ共に勞働階級の讀者の爲めに解り易い“Economics of Industry”を書いて居る時に當つて、非常な重病に罹り其後しばらくは劇務に堪えられさうになかつた。然ししばしの後其の經濟問題の圖解的說明の改作を行つた。故ワルラス教授は之を刊行するやう勸めたが彼は其をやめた。こ云ふのは其を現實の狀態の具體的硏究こ別にする時は、實際以上に眞問題こ直接の關係を有つて居るやうに見えるこ云ふ恐れがあつたからである。そこで彼は其に必要な制限や條件を加へ始めた。かくして彼の「經濟學原理」の第五編の核心は書かれたのである。此の核心を中心こして前後に附加擴張を行つたものが現在の形こなつて一八九〇年に公刊されたのである。』

◈

マーシャルは『特種經濟問題に關する單行論文の一團』を書かうこする計畫を拋棄し其の代り一の包括的な論著を著はさうこ企てるに至つた。然し其の論著は經濟學上のヂュピターの頭から湧き出でたこ云ふやうな完全有力なものたらしめねばならぬこ考へた。殊にマーシャルが最初研究し上げた特殊問題即貨幣及外國貿易は論理的排列の上から此の論著の最後の章節に入れねばならぬものである。かくの如き事情の下に之等論著は五十年間も世に現はれずに居たのであつた。

彼の研究の順序を辿つて見れば次の如くである。一八六七年に主こしてリカードーこミルの影響の下に、外國貿易の問題に特別な注意を拂ひつつ圖解的方法を發展させ始めた。之にクルノーの影響が加はり又其よりは少い程度に於てフォン・チューネンに影響された。其の爲めに彼は『我我の自然に對する觀察こ云ふものは精神の世界に於ても物の世界に於ても、總量よりは寧ろ量の增加こ云ふ事に關係するものだこ云ふ事實を重要視するに至つた。殊に一の物に對する需要なるものは繼續的な機能で其の「最終」增加は其に相當する生產費の增加こ釣合つて平衡を保つて居るこ云ふ事實を重大視するやうになつた。此の點に於ける繼續性の見解を明瞭完全にする事は數

學的記號若くは圖表の助けを藉るにあらざれば容易でない。』(經濟學原理第一版序文)一八七一年頃までに於ける彼の此の方面に於ける進歩は著しいものがあつた。彼の圖表的經濟學の基礎は全く確立せられ彼は門弟に新しい學說を解說して居た。此の年にチェヴォンズの獨立の研究に成る『經濟學原理』が出た。此の本は恰も、マーシャルが徐徐に研究を積みながら自ら未だ不充分なりとして發表せざりしと正に同じ新學說の主要部分を公にしたものであつたからマーシャルは定めし失望落膽したことであらう。然し限界效用說については明にチェヴォンズが優先したのであつた。マーシャルは學說發表の時期の前後の問題にはつとめて言及しないやうにし、チェヴォンズの主張を壞さぬやう注意したと同時に間接的に併し極めて明確に、自己の研究は何等チェヴォンズに負ふ所なきを指示した。

一八七二年にマーシャルは雜誌『アカデミー』に於てチェヴォンズの『經濟學原理』を批評した。此の批評はチェヴォンズに不利なものでは勿論ないが稍忌憚なき批評で二三の誤謬を指摘して居る。其の批評の結論に於て『此の書の眞價は其の卓越せる理論に在らずして寧ろ多くの小問題の獨創的取扱、其の暗示を含む說明と注意深き分拆に存する。我我はいつも新しき衣を着けた舊友に會ふ。……かくて物の全部効用は其の最終效用の大きさに比例するものではないことは明かだ。……然しチェヴォンズ教授は之を嚮導概念と爲し其の衣を着けて多くの經濟事實を演出した。』と言つて居る。然しマーシャルが後年『經濟學原理』を書くに至つた時、彼がチェヴォンズに對し如何に用心深く公平を保ち、如何に嫉妬の形跡を避けやうとつとめたかは明かに看守せられる。誠に彼は或る個所では『チェヴォンズが其の新說を述ぶるの愉快に驅られて所所に於て不正確なるのみならず有害な結論に到達するに至つたのは惜しみても餘りあることだ……』と言つて居るが又他の個所に於ては『リカードーの聰明な獨創に近く歩み寄ることチェヴォンズの如きは近代に於て稀である』と云ひ又『我我の感謝すべき思想家中チェヴォンズの如く高度の且つ諸種の感謝を要求する人は稀である。』と言つて居る。

實際チェヴォンスの『經濟學原理』は立派な本ではあるが、俄作りの不正確不完全な假綴本であつてマーシャルの苦心を重ねた、完全な極端に忠實な且つ非際物的な穩健な方法とは非常に懸け離れて居る。チェヴォンズの著は限界效用の觀念及び勞働の不效用と生產物の效用との間の平衡の觀念を明確に敎へる。が然しマーシャルの忍耐、不屈の勞作及び科學的天分によつて回轉せしめられる大機械と比較すれば、其は悧發な思想と云ふ薄つぺらな世界にのみ存するものだ。チェヴォンズは鐵瓶の蒸氣を吐くを見て小供の如く喜び叫んだ。マーシャルも亦鐵瓶の蒸氣を見たが彼は靜かに座して蒸汽機關を建造することを考へた。

此間マーシャルは普遍化された圖表方法を研究し續けた。其は『外國貿易及國內價値の純理』に關する彼の論文によく現れ居る。此の論文は一八七三年の頃全く完結して居たらしく當時彼の門弟(特に Sir H.H. Cunynghame)への通信に於て述べられて居る。此の論文は『外國貿易理論(附自由放任主義に關する諸問題)』と云ふ書物の一部と爲すために起草されたのである。此の書は一八六九年以後の彼の勞作を集めたもので米國旅行後の一八七五年——七年に殆んど完成して居たのであるが未だ出版するに至らずして一八七七年に彼は妻と共に Econmics of Industry を書く爲め暫時側道に入つた。ヘンリ・シヂウィックはマーシャルの優先權が他人に奪はるるの恐れあるを慮り前記著作を知人に配付する爲め印刷に附し內外の有名な經濟學者に送つた。其の論著は社會一般に向つて發表するに至らず又前記印刷物の殘存せるものも極めて少いが然し最も重要な部分は『經濟學原理』の第五編第十一章及第十二章並に(創案から五十年の後に)『貨幣、信用及商業』の附錄Jに編入されて居る。

(未完)

新刊紹介

消費組合運動

關西大學講師　山村　喬譯

本書は**フェビアン**協會の智嚢として、勞働黨內隨一の學者として、英國勞働運動、社會主義運動に最も重きをなす**シドニー・ウェッブ**氏が、勞働組合運動の理論を研究した『産業民主制論』Industrial Democracy, 1897 主として來るべき國家の構成を論じた『大英社會主義國の構成』A Constitution for the Socialist Common wealth of Great Britain, 1920 と共に、社會組織に關する三部作の一とも稱すべき大著として**ベアトリス**夫人との協力の下に過般公にした『消費組合運動』Sidney and Beatrice Webb: The Consumers' Co-operative Movement, 1921 の全譯である。

本書に於ては、著者自身が序文の壁頭に述べてゐるやうに、英國に於ける協同組合運動の歷史を書いたものではなくて、その現狀を敍述分析すると共に、民主制の他の諸表現に對するその關係と、將來に於けるその發展の可能性とが論じられてゐる。卽ち一八四四年に、僅かに二十八名の**フランネル織工**が設立した**ロッチデール**開拓者組合に端を發すると謂はれる英國の消費組合運動は、その後八十年を經た今日實に驚くべき發達を遂げ、現に**千四百**に餘る消費組合が設立されて居り、これに包容さるるものは英國全戶數の七分の三を占め、**一億萬ポンド**以上の持分資本を擁し、年額**二億五千萬ポンド**の賣上を示しつつある。而もこれ等の消費組合の依つて以て立つところの根本基調が、動もすると解せられるやうな、勞働者階級のための單なる溫情的設備や貯蓄機關ではなく、この種の方法を以て價格上の利潤を廢止することに依り、利潤を目的とする資本主義經濟組織の存立をして不可能ならしめんとする點にあることは、特に英國に於ける該運動の特徵である。著書が最も重要視するところがこの點に在ることは勿論であつて、資本主義經濟組織がそれ自身の內部に發達せる社會主義運動、勞働組合運動及びこの消費組合運動に依つて、如何に新しき社會秩序に取つて代らるべきか、又果してかくの如きことが可能であるか等を研める上に於て、本書の貢獻するところは特に多大なるものがあるであらう。譯者山村喬氏は本學に於て工業政策その他を講じつつある人、曾て大原社會問題研究所に在つた頃卽ち大正十一年三月下旬から、研究調査に從事する傍ら本書の飜譯に手を下し、その後同所を去つて本學に入つた大正十二年四月以來尚ほその仕事を續け、同年秋完成したもので、今回漸く同研究所叢書第九冊として出版せられた。原文に忠實であると共に、譯書に伴ひがちな晦澁の點なく著者の眞意を十分に傳へてゐる。この方面の問題を研めんとする人人に特に推奬して已まぬ。(定價金四圓八拾錢、東京同人社書店發行)—K・T生

校友の

▲特許辨理士 市會議員　杉野乙治郎氏▼
明治三十三年法科出身

×

毛馬の閘門から流れ落ちた水が大阪市内に流れ込む淀川を前に控へた澤上江町の私邸を訪ふ。選擧の濟んだ後二日、ごたごたした玄關の邊りには未だ當時の混雜の名殘が殘つてゐるやうに思はれた。やがてあらはれた氏は疎らな胡麻鹽の頭と線の太い赭顏、そして若者のやうな齒切れのよい口調で物語るのである。

×

『先づ都市に對する概括的な觀念から申上げると、私は都市と云ふのは一定の地域に於ける人類の密集團體であると考へてゐる。從つて都市に於いては過度の人口密度の爲めに市民の健康が害はれ易い。又多數の人人が接觸する關係上人人は種種の誘惑や陷井に陷り易い傾向がある。之に對しては精神の健全從つて思想上のことが問題となつて來る。又今日の都市の現狀として市民に共存共榮の念が乏しいやうである。昔から向三軒兩隣と云ふが今日では隣の人の名前さへ知らぬ人が多い。之等の事柄が云はば今日の都市生活の特長である。從つて市の當局、市會議員等が都市の施設を考ふるに當つて先づ眼目とすべきは市民の健康、市民の精神的健全、共存共榮の生活——これは又よりよき共同生活の訓練となるであらう——等を充分に實現せしむることである。之等が所謂都市行政の眼目となるものであつて、他の點は大小の差こそあれ町村の行政と本質的の差はない。』

×

『斯かる見地から大阪の現狀を考へて私は先づ都制卽ち特別市制を施き市政の機關に多少の改革を加へ度いと思ふ。第一に市長を公選にして參事會を執行機關になすこと、並びに市會に於いて各方面の專門家を推薦して參與とし市政運用の上に專門的知識を豐富にすること、これは近頃外國に於いて實績を擧げつつある委員制度の精神を移したものである。又一般市民に苦痛を與へない財源として保險の市營を實行し度い。元來都市の諸設備が完備すると共に死亡率、火災の損害率等は減少するのであつて、此爲めに生ずる利益を一營利會社に壟斷せしめるのは不合理であるからである。』

×

『最後に今日論ぜられてゐる問題として高等商業學校の昇格には反對である。私の考へでは大學と云ふのは最高の學府であつて學者を作る機關である。然るに大阪は商工都市であつて人物を造るならば實際に間に合ふ人を造るべきである。そして此爲めには高等商業が

杉野乙次郎氏

學内報

本學理事改選

本學理事中佐竹三吾、池尾芳藏兩氏の任期滿了につき今回改選の結果池尾氏再選せられ學長松本烝治氏が新に理事に選任せられた。

本學專任敎員會

去月二十九日午後二時より、及び本月六日午後二時より、千里山學舍敎授室に於て、本學專任敎員會を開催し敎務上の諸問題に關し各自意見を交換するところがあつた。

本學專任敎員の松本學長歡迎會

去月三十日午後六時から本學專任敎員に依る松本學長歡迎會が市內東區大阪倶樂部に於て開催せられた。定刻主賓松本學長及び專任敎員一同出席、卓を共にして歡談すること數刻盛會裡に閉會した。

本學評協議員有志の松本學長歡迎會

去月三十一日午後六時から、本學協議員吉田音松、黑田莊次郎、內藤正剛三氏發起の下に本學評議員及び協議員有志の松本學長歡迎會が市內東區今橋鶴屋に於て開催せられた。定刻主賓松本學長竝に本部評、協議員有志十數氏出席、卓を共にして歡談すること數刻盛會裡に散會した。

川崎講師の大阪辯護士會長當選

本會協議員、講師川崎齊一郎氏は這般の大阪辯護士會會長改選に際し同會會長に當選した。

松本學長帝國學士院會員に推薦せらる

本學學長松本烝治博士は今回帝國學士院會員に推薦せられた。

本學關係者の大阪市議當選

本月の初めに行はれた大阪市會議員の總選擧に於て、本學關係者中左記諸氏が當選した。
內藤正剛（校友、協議員）　白川朋吉（校友、理事）　廣瀨德藏（校友、評議員）　森下政一（講師）　森英之助（校友）　杉野乙次郎（校友）——（イロハ順）

學部竝大學豫科本學年度學級委員任命

去月三十日附を以て本學學部竝に大學豫科本學年度學級委員を左の如く任命した。

法律學科三年——芝本幸吉、福西新左衞門
同　二年——上村靜馬、田畑準雄
同　一年——甲賀德男、八澤倶好
政治學科三年——清家唯一、天宅俊治
經濟學部
商業學科三年——三宅修太郎、久保田直敏
同　二年——中野勇次郎、岡松庄太夫
同　一年——伊藤祐一、杉村信太郎
經濟學科二年——四辻詮、杉崎道男
同　一年——德久俊次、黑柳章
大學豫科第三學年
A組——本田末一、入江堅壽
B組——野口茂樹、中井三之助
同　第二學年
A組——本田平、杉竹清次郎

面影

最も適當であつて又それで充分である。專門に學問を研究する大學は國家が之を經營するに任じて置けばよろしい。何も苦しい財源の中から之を建てる必要はないのである。……』

×

かくて氏の論鋒は愈冴える。將に新市會に於ける一異彩であらう。而も其のかかるところは大大阪の利害であり全市民の福祉である。吾人は今更氏をして勝利者たらしめた天の深き攝理に感謝せざるを得ない。

×

氏は大阪の産、中學を半途にして退き文官試驗を通つて造幣局に屬となつた。本學卒業後明治三十六年に辨理士試驗に及第し四十年には北區役所に入つて收税係を勤め第三課長、第一課長と累進して、大正五年には市役所に轉じて主事となつた。現在の業務を始めたのは大正七年からのことである。

▲實業家 市會議員 森英之助氏▼

明治三十九年法科出身

市は明治十八年現住の地に生れ天王寺中學卒業後本學に學んだ。一度志願兵として經理部に入隊し陸軍三等主計の官等を得、退營後市內にあつて實業を營み今日に及んだ。云はば氏は生粋の大阪ッ兒である。

×

何事にまれ深き愛はよりよき理解と向上の道を辿らしめる。之を日常の業務について見ても吾人が一の職務を完全に遂行し得べき第一の基礎は其職務の內容に對する愛であつて、此の愛から職務に對する理解と熱誠が生れて來る。此の意味に於いて大阪市の市會議員として完全に其使命を果す人は先づ大阪市を愛する人でなければならぬ。而も大阪市を愛する、大阪市を故郷とする人に如くはない。

×

氏は過去に於いても或ひは在郷軍人分會長、所得調査委員、區會副議長等として公務の爲めに盡瘁したこと少くないが、尙ほ市會議員としての氏は未知數に屬する。然るに吾人が

森英之助氏

此未知數たる氏に對して何等かの期待を置かんとする所以のものは一に氏が大阪市を故郷とする、從つて大阪市を愛する最も深き一人たることを信ずるからである。

×

吾人は不幸にして直接氏の抱負を聞くの機會を逸した。しかし天王寺區の一級から壓倒的多數を以て當選したことは、氏が市政に對しても亦一般市民の胸奥に觸るる經倫の何ものかを有してゐることを伺はしむる。暫く記して吾人の期待が事實如何に酬ゐらるるかを見んと欲する。

B組――西崎作太郎、稻村重藏
C組――平田茂、寺下勇
D組――山口多賀藏、梶關市

同　第一學年

A組――沖中秀直、木村健藏
B組――田岡實、中辻淳
C組――兼松秀臣、武田秀之助
D組――澤田鐵太郎、大島環
E組――奥田治、青野昌平
F組――小泉文治、藤原政太郎

千里山工業見學團の設立

工業立國と云ふことは最早言論の時期を經過して實行の域に進んでゐる。將來工業に直接關係の無い人士も常識として一通りの工業の知識を有してゐることは必要である。これによつて本學大學豫科に於ても自然科學の科目に於て物理化學の根本原理及びその應用の一斑を教授してゐるが、尙は進んでそれ等に基いて實地に作業をしてゐる工場及び製造工業に關する諸試驗場、諸施設等の實地見學をなすことは學窓に於ける講義を聞く以上に裨益するところが甚だ多いことと思ふ。この趣旨から今回自然科學中物理化學擔當の河村講師嚮導の下に時時前記の諸工場、諸施設を見學する目的を以て工業見學團が創設せられた。右見學團は大學豫科學生中の有志を以て組織し、その第一回として去月十三日市內豐崎町南長柄藤田鑛業株式會社豐崎壓延工場見學を催した。同日は見學團を二班に別ち第一班は午後二時半都島橋西詰に參集し、直ちに同工場に赴き、原料、熔解爐、反射爐、ロール機その他の諸設備に就き同所技師の說明を煩し大いに得るところがあつた。第二班は同三時半同所に參集し前班と同じく諸見學を終へた。尙ほ當日は河村講師の外樋口講師も參加せられた。終に右見學に關し懇切なる案內說を添ふし且つ多大の便宜を與へられた工場長、技師、その他の諸氏に厚く御禮を申し述べる。尙ほ本學關係諸先輩の關係せらるる工場等に於て右趣意に依る見學に適當と思はるるところがあれば、見學に御盡力あらんことを御願ひする。

第二回工場見學

前掲工業見學第一回に次いで去月二十七日午後放課後第二回を東野田町日本冷藏株式會社に催した。當日初夏の日に照らされながら淀川橋を渡つて同會社に到達した河村教授始め大學豫科二年生有志の一行は流汗を事務所樓上の凉しい處で乾かし冷氷の御馳走を頂戴しながら福原支配人の同社の沿革及現況の一斑を拜聽し、工務員の御案內に由て工場各部を順次見學した。アンモニア壓縮室、冷却室から高野豆腐製造の工程、冷藏庫應用の實見に至る迄或處は焦熱大焦熱、或處は紅蓮大紅蓮、熱帶から一足飛びの寒帶旅行をし、其間に化學と機械力の巧妙を感心した、殊に目下研究中に屬する廢物よりアルコールの製造及ソース製造には皆皆驚異と感嘆の辭を惜しまなかつた。末筆ながら茲に同社支配人を始め工場諸員の御懇切なる御說明及御案內に對し厚く御禮を申述べる。

大學豫科學生の工場見學

前掲千里山工業見學團設立と同樣の目的を以て、本月三日本學大學豫科第一學年の學生約

二百名は、河村、大立目、松崎、中村、樋口五專任教職員の引率の下に神戸川崎造船所を見學した。同日午前八時阪神電車梅田起點に參集せる團員約二百名、川村講師引率の下に同所より電車にて神戸市に到り、先づ兵庫東川崎町に在る川崎造船所本工場を見學し、正午一先づ散解して各自晝食を攝り、午後一時再び同所葺合工場に參集、同工場の見學を終へて解散した。最後に終始懇に案內說明の勞を取られた川崎造船所員各位に深く御禮を申し上げる。

本學專任敎員の近業

宮島綱男敎授　―過般來執筆中の『經濟學原理』上卷殆ご成り、近く東京暸文堂書店から刊行せられるこごになつてゐる。收むるこころ總論、生產論、分配論の三編約五百頁に達する筈、尙ほ同敎授は引續きその下卷の著述にも着手せられる由である。

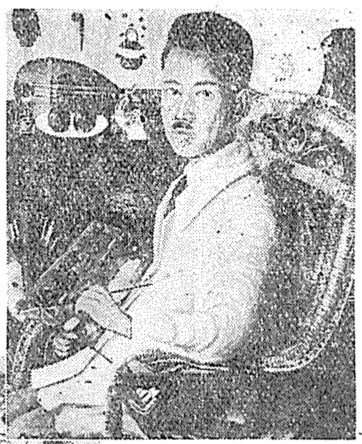
沖中恒幸敎授　―同敎授歸朝後最初の述作である『金融機關の綜合的硏究』が去月三十一日附を以て東京巖松堂書店から發行せられた。約五百頁の大著である。同敎授が尙ほ引き續き執筆中であつた『經濟思想史論』及び『企業論』の何れも殆ご稿成り近く公刊して世に問ふこごになつてゐるこのこごである。

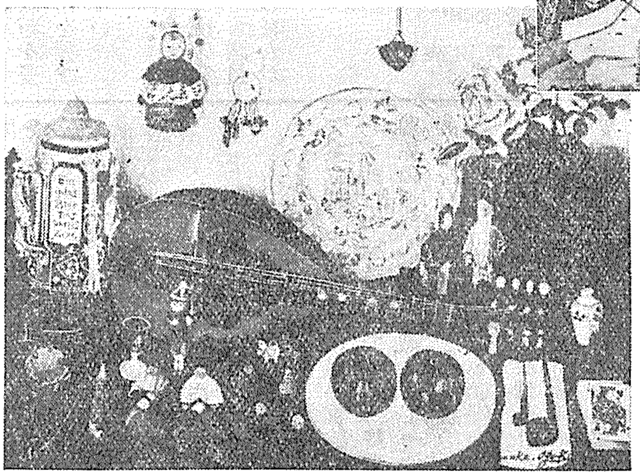
山村喬講師　―會て氏が大原社會問題硏究所の委囑を受けて携はりつつあつたシドニ・ウェブ夫妻著『英國消費組合運動』（Sidney and Beatrice Webb: 'The Consumers' Co-operative Movement, 1921）の全譯成り、今回大原社會問題硏究所叢書第九册こして東京同人社書店から出版せられた。約六百頁の大册である。

校友彙報

校友會大阪支部春季總會

本學校友會大阪支部本年度春季總會は去月十七日午後四時から京都府伏見觀月橋畔澤文支店に於て開かれた。當日會員の出席する者約七十名、午前十時市內天滿橋南詰京阪電車起點に集合し十時半同所發先づ宇治に向ひ、正午宇治着、平等院濱茶店に於て晝食を濟し、それより各自或は附近の名所舊蹟を探り、或は舟を宇治川に浮べ等して、綠美しい初夏の氣分を十分に味ひ、定刻までに會場澤文支店の大廣間に集まつた。定刻砂川會長の挨拶に次で、中書島美妓酒間斡旋の間に間に先づ野口政次郞氏の得意のごじようすくひを初めごして、會員の隱し藝の披露、藝妓の手踊等があり歡を盡して午後八時頃盛會裡に散會した。因に當日の出席者は左の通りである。





横井亮祐氏の作品（上）自畫像（下）靜物

稻葉正雄、岩崎卯一、石川敏雄、飯田淸藏、岩岸巖、橋本鹿藏、林經夫、濱田昌尾、本田武藏、戶田省三、岡部庄次、岡本重治、岡本義男、渡邊菊之助、川崎齊一郞、神田榮吉、桂忠雄、金井正夫、吉野謙吉、垂水善太郞、武森武市、高松林之助、田中俊逸、瀧本貢、田川七郞、辰巳經世、辻村政治、中村鄧次郞、中川興之助、中江濟、中務平吉、中村眞之助、室石常秀、村松岩吉、野村吉藏、野口政次郞、山口房五郞、籔下吟次郞、山內善二、山根瀧藏、山本彌一郞、增山忠次、丸山昔生、松崎義盛、松本標四郞、古田吉五郞、後閑宣太郞、小泉幸治、兒玉善吉、後藤田德太郞、近藤友房、櫻井匡、菊池金次郞、木戶卯之助、淸成五六郞、木下孫一、湯原慶太郞、三野莞爾、道端常治郞、三島律夫、志野覺治郞、目代誠吉、森川太郞、關豐馬、砂川雄峻

校友中川庸太郞氏の渡米

大正九年度專門部法律科出身の中川庸太郞氏は從來日本銀行大阪支店に勤務中であつたが今回經濟學硏究の爲に渡米するここなり來月五日横濱出帆の郵船筥崎丸にて出發する豫定で、去る三日午後八時五十分大阪發の急行で東上した。因に同氏は最初コロンビヤ大學に入學の豫定で宮島本學專務理事は同大學セリグマン敎授に對する紹介狀を書いた。大阪出發に當つて本學からは田川秘書が見送つた

校友横井氏美術展入選

校友横井亮祐氏は今年再び大阪市美術展覽會に入選した。同氏の寄贈である入選畫の寫眞を玆に揭げて喜びを共にする。

校友動靜

岸田駒太郞氏（大一四專法）　此の度市外豐津尋常高等小學校を退職し大同生命保險會社に入社した。

中島泰一氏（大八專經）　北區中之島三丁目日本電報通信社支局に入つた。

安藝茂富氏（明三一法）　旭川地方裁判所長より名古屋控訴院部長に榮轉した。

木村佐太郞氏（大七專法）　大阪稅務監督局屬から司稅官こなつた。

佐々木靜吾氏（明二九法）　今回ポーランド國ワルソー帝國公使館が大使館に昇格したについて同大使館二等書記官に任官した。

藤本梅一氏（明三五法）　長岡裁判所判事より前橋裁判所判事に轉じた。

內田重成氏（明二二法）　海軍省法務局長主理を退いた。

井上義雄氏（大一二專商）　從來一年志願兵こして篠山聯隊に入營中の所昨年末退營今回西淀川區大和田町一一八に住所を定めた。

校友住所移動

村井久（大一四專法）朝鮮釜山土城町瓦斯電氣社宅甲六號
守山鼎吉（大一三專商）鹿兒島市第七高等學校東寮十四號
藤本龜（大一四專法）岡山縣久米郡弓削町
納所孝（大一三專經）福岡縣門司市東本町一丁目山下商店內
平松彥八（明三八專法）神奈川縣鶴見町豐岡二六九
德重又二郎（大八專法）臺北市八甲町二丁目二八
宮本政藏（　推　）天王寺區國分町一五七
山本小一郎（明四四專法）東京府荏原郡大森町字堀內三七ノ五二
石塚晴（大一一專商）東京市大井町篠村六一六〇神田氏方
飯田金右衞門（大一三專商）此花區吉野町一丁目五五國光製藥株式會社
平島晉一（大一一專經）浪花區西濱中通二丁目二二八平島醫院內
川瀨宇吉（明四五專法）豐橋市役所
島屋清敎（大一四專法）福井縣敦賀郡敦賀町北津內一八〇ノ五藤本方
土井吉光（大一三專法）此花區四貫島町二五一
前川龜一（大一四專法）和歌山縣東牟婁郡新宮町五六九
河村宣介（大一〇專商）京阪沿線森小路二一五
德矢清太郎（大八專法）東區南久寶寺町一丁目三〇三
岩本政一（明三九專法）東區船越町二丁目一一
花本春憲（大一一專法）東區船越町二丁目一一
長谷川安治（大一三專法）姬路市元町二五地
西村輝一（明四三專法）東京市復興局事務官
木村義治（大一四專法）浪速區鷗町三丁目五九木村音吉方
蜷木茂驥（大一三專商）阪急沿線曾根岡山杉村邸方
阪田宏（大九專法）住吉區桑津町一九六
宏谷英造（大一二專商）東淀川區中津本町宏谷製鋼所
橋本利八（大一四專法）北區澤上江町四ー八九
眞木新（大一四大商）名古屋市東區七間町一矢作水力株式會社
望月靖彥（大一三專經）浪速區西神田町八八六西田方

校友改姓名

	（舊）	（新）
大一二專法	三木富三郎	中島富三郎
大一二商	馬淵義雄	井上義雄

學生彙報

千里山學友會本學年度委員任命

千里山學友會本學年委員は左の如く決定任命せられた。

文藝部——山崎峰雄（法三）、米田浩三（同）、木村鹿男（同）、江里口正行（同二）、藪下益治（同一）、原田滿（同）、服部實（豫三）、加藤勝一（同二）

相撲部——中山寅造（法一）、碇勝（豫二）

野球部——高田貫左右（法三）、倉橋巖（同一）

庭球部——名劍淺次（法一）

ア式蹴球部——角田好太郎（法三）、鎌田卯三郎（豫二）

ラ式蹴球部——西原新太郎（商二）、中村良之助（經二）

陸上競技部——野原修五郎（經二）、西村壽陸（豫三）、平田茂（豫二）

劍道部——道明一雄（豫三）

柔道部——高岡武夫（豫三）

ボクシング部——綾部研三（豫三）、堤鎖鑰（豫二）

水泳部——池本彌太郎（法二）、東清一（豫二）

千里山英語會近状

千里山英語會では先般小ローリングズ氏が講師として就任したるを機とし同氏を中心に盛に練習、研究、活動を爲しつつあるが、今回毎木曜日午後三時半から集會することになり六月四日（木曜日）午後三時半其の第一回の集りを催した。當日はローリングズ講師の外櫻井教授も出席し、ローリングズ氏は英語研究法に關し有益な敎示を與へ、櫻井教授も一場の挨拶をせられ、卓を圍んで活潑な英語の觀談を爲し日暮るるに及んで散會した。當日の申合せは次の通りであつた。

一、會員相互の談話は常に英語を用ふること
二、毎週木曜日午後三時から討論會を開くこと
三、會費は毎月貳拾錢宛醵出すること
四、委員＝牧山、中西、中野、四辻、野崎、八澤、山口、本田、松尾、稻村、福田、監物、廣川の諸君

（四辻委員報）

福島英語會近状

福島英語會では今回隔週水曜日午後八時から集會することになり其の第一回を五月二十日（水曜日）に催した。當日は佐々教授、飯田講師、松田助教授も臨席せられ、佐々教授の普通選擧に關する講演、飯田講師の國際勞働會議に關する講演等あり、其他會員の卽席演說等あり歡談裡に會を閉ぢた。此際同好の士の參加を希望すと。

國際聯盟本學學生支部の活動

國際聯盟協會關西大學學生支部の目覺しき活動は前號に詳細に報道した通りであるが、その後協會本部の委囑に基づき、本學支部及び古屋女子英學塾學生支部が主として斡旋の勞を執つて組織せられた學生支部關西聯合會は當時新聞紙の報道に見えた通り、關西に於ける八學生支部が相集つて去る五月二十六日古屋英學塾に於て第一回準備委員會を開催するに至つた。當日は、特に來阪せられた聯盟協會幹事青木節一氏の出席を得て規約草案の審議を了し、各支部は將來の方針に關し同氏と交打合せをなし、尙近く次回の設立委員會を京都に開催することを約して和氣靄靄裡に散會した。

次で本學支部は更に大講演會開催を計畫し、古屋女子英學塾支部の助力を得て種種奔走し公用の爲め來阪中の聯盟協會理事林毅陸博士、高柳松一郎博士（協會大阪支部常務理事）、高原操氏（同）、河野三通志氏（大每）、並に本學學生支部長岩崎卯一教授の五氏を迎へて、學生支部關西聯合會及聯盟協會大阪支部主催大朝大每後援の下に去る五月三十日新裝成れる大阪商業會議所に於て開催した。聽衆三百を超え頗る盛會であつた。右講演會終つて同夜七時より、聯合會臨時委員會を開き本學支部提案の時局問題討論會毎月一回開催の件其他を可決、これに付き本部より援助を仰ぐことに決し、最後に同委員會は聯合會第一次の事業たる本講演會の大成功に就き、本學學生支部及び古屋英學塾學生支部の盡力に對し、厚き感謝の辭を述ぶる所あつて散會した。

本學支部は以上の如き外部的活動の外、內部に於ても一層力强き躍進を試みてゐる。會員の眞摯にして研究的な態度は全く國際聯盟の前途の光輝と踴躍とを告ぐる曉鐘である。覺醒鼓である。

今回、創立當時の規約と內部組織とに多少の變更を加へて、事務の進捗、新入會者の便宜

を計るこ共に、特に研究機關の充實に努むる爲圖書の購入其他重要事項に關し協會本部へ直接交渉中である。又最近、擴張委員の制を設けて專ら會員增加の方法を講ぜしむるここなつた。（中西委員談）

千里山辯論部辯士派遣

六月十三日東京法政大學講堂に於いて催された同大學全國學生雄辯大會に千里山辯論部では次の通り辯士を派遣した。

一、他人の軒を借りて　法三　山崎峰雄君

千里山雄辯同好會

同會が昨年來學の內外に於いて屢演說會を催し辯論の練習こ民衆この接觸に努めて來たこごは其都度本誌上に報導した通りであるが、今回普通選擧法が議會を通過したについて其記念演說會を五月五日吹田町朝日座に於いて開催し多大の成功を收めた。演題及び辯士次の通りである。

プログラム

一開會の辭	豫二	吉增義夫君
一開かれたる扉	豫一	山本耕三君
一學窓に映れる普選	豫二	中石喜代數君
一普選を前提こする社會教育	豫二	辰巳孝二君
一百尺竿頭更に一歩を進めよ	豫三	長岡盛人君
一司會者挨拶	法一	八澤俱好君
一五十步？百步？	法一	原田滿君
一吾國の政治過程を論じて普選こ治安維持法に及ぶ	法一	清水正秀君
一普選に直面して	法一	樫木信夫君
一普選に對する余の私見	法三	山本光輝君
一治安維持法を弔ふ	法一	藪下益治君
一閉會の辭	法一	藪下益治君

尙翌六日には第九教室に於いて新入會員歡迎を兼ねて總會を開き、種種懇談の上會則を次の通りに變更し役員を選擧して散會した。

關西大學雄辯同好會會則

第一條　本會ハ關西大學雄辯同好會ト稱ス
第二條　本會ハ關西大學學生ヲ以テ組織ス
第三條　本會ハ事務所ヲ千里山關西大學內ニ置ク
第四條　本會ハ會員相互ノ親睦ヲ圖リ雄辯ノ達成ヲ期スルヲ以テ目的トス
第五條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク
　幹事長　一名　幹事　十二名
　　但シ幹事中ヨリ會計二名ヲ互選ス
第六條　本會ハ會員ノ推薦ニヨリ顧問ヲ置ク
第七條　本會ハ目的遂行ノ爲メ左ノ事業ヲ行フ
一、每週三回以上學內雄辯練習會ヲ開クコト
二、每學期二回乃至三回雄辯大會ヲ開クコト
第八條　會員ハ會費トシテ每學期ノ始メニ金壹圓ヲ會計係ニ納入スルコト
第九條　左ノ事項ニ相當スルモノハ除名處分ニ處スコトアルベシ
一、會員タル體面ヲ汚シタルモノ
二、會費ヲ納入セザルモノ
三、故意ニ例會ニ出席セザルモノ　（以上）

▽現在役員　幹事長＝(法一)清水正秀、幹事＝(豫三)夫川靜男、(豫三)淺田義夫、(豫二)辰巳孝治、(豫二)吉增義夫、(豫二)田中基次、(豫三)田中義夫、(豫一)梅田、(豫一)西山眞一、(豫一)進正男、(豫一)節木、(豫一)福原、(豫一)萩野、會計＝吉增、辰巳

第四回皇陵巡拜及史蹟探査會

去る五月十七日黎明一行十七名は梅田驛出發桃山驛に向ひ先帝陛下及び皇太后の御陵を拜した。更に桃山城に至つて豐公の偉業を偲び再び桓武天皇柏原御陵に參拜し乃木神社に詣でて木幡松北園製茶所を見學する。同所で新茶の手土產を受け黃檗山萬福寺に詣で特に特別保護建造物である齊堂で食事するこごを許された。「山門を出づれば日本ぞ茶摘み歌」の句を浮べつつ三室戶寺に寄つて一直線に宇治に向ふ。先づ平等院を見て二時間餘に亙り詳細なる說明を聞き茶菓の接待を受けて同所を辭し賴政の菩提を弔ふ。出でて浮島より便船を借りて宇治の淸流を渡り水にうつる新綠の蔭に俗膓を洗つて興聖寺を訪ひ宇治橋斷碑を見て午後九時半歸阪した。當日の出席者次の通りである。

大立目講師、河村講師、加藤講師、山本順應氏、野間豐吉、松須賀根、野茂樹、入江堅壽、首藤章、森井惣吉、淺見敏郎、坪田吾一、齋藤湊、講邊文和、岩田浩太郎、奥川武郎の諸君。

福島向上部報

福島學友會向上部では昨年來專門部特科學生に對し正科學生こ同等の資格を與へるこご、並びに專門部卒業生に對し中等並びに實業學校教員無試驗檢定の資格を附與せられ度き旨を議會に請願して受容れられたので、今回役員の改選こ共に一層努力して目的の貫徹を圖るここになつた。因に新役員は次の通りである。

向上部長＝植田完治君、同副部長＝眞鍋介次郎君、同庶務部長＝嵐勝藏君、同會計部長＝瀧石彥馬君

千里山相撲部の近況

京阪神學生相撲大會出場　去月十日神戶市須磨に於て神戶又新日報主催の下に開催せられた京阪神大學專門學校學生相撲大會に出場した。團體試合こしては、三對二で立命館大學を、四對一で神戶高工を、三對二で大阪藥專を何れも破つたが、得點の不足で優勝戰に加はるこごが出來ず、優勝旗は三對二で本學のために破れた大阪藥專の獲得するこころこなつた。右團體試合に於て全勝した竹田、秋山兩選手は更に個人決勝戰に出場したが、秋山は第二回戰に關西學院大守のために破られ、竹田又最後の優勝戰に惜しくも勝を前記大守に讓り、二等の優勝旗を獲得した。因に參加校數十三、本學出場選手は竹田、秋山、山口、中山、岩佐の五君であつた。

東海學生相撲大會出場　同月二十四日名古屋市控訴院趾に於て愛知新聞主催の下に開催せられた東海學生相撲大學に出場、團體試合に於ては、五對〇で同志社大學(棄權)に勝ち、一對四で明治大學に破れ、五對〇で愛知醫大に勝ち、全勝者竹田選手は個人優勝戰に於て多數の强敵を屠り、最後に關西學院の大守を倒して優勝し、愛知新聞社から日本刀一振、第三師團長からカップを、八代海軍大將から大將直筆の掛軸を與へられた。因に竹田が最後に戰つて破つた大守は過日須磨で戰つて敗を取つた相手故、ここに美事雪辱し得た譯である。尙ほこの大會の參加校十五、本學選手は竹田、秋山、山口、堀內、岩佐の五君であつた。

大阪藥專相撲大會に出場　本月六日大阪藥學專門學校主催の相撲大會に出場して、竹田選手は飛付五人拔に全勝し大花輪を獲た。

陸上競技部報

千里山陸上競技部では這般の第二次極東選手權大會に選手を派遣したが左の諸選手は日本選手權を獲得した。

松葉德三郎君、谷上茂君、岸源左衛門君

千里山野球部報

京大に惜敗　京都帝大對本學の野球戰は五月十一日午後三時四十分から寶塚球場に於いて孫(球)原山(壘)兩氏審判の下に開始八Ａ對七で本學惜敗した。成績次の通り

關大	
SS	川村
3B	林
1B	近藤
LF2B	森田
P	金政
RF	菊川
C	尾阪
2B	西浦
CF	横澤
2B	成瀬

失策	四球	三振	盜壘	犠打	安打	打數
四	三	二	四	二	一四	三七

京大	
B.P.RF	德川
SS	川澄
C	木村
CF	中出
P.LF	三濱
1B	張
2B	名倉
3B	飯島
RF.P	和田

失策	四球	三振	盜壘	犠打	安打	打數
二	九	〇	一	二	二	三五

リーグ戰第一回戰　大阪毎日後援の三校リーグ戰の第一回同志社大學對本學の野球戰は五月十日午後三時十五分から寢屋川球場に於いて球審今北、壘審山中兩氏の下に本學の先攻で開始した。兩軍攻防良く戰つたが第九回裏にて同志社一死後敵失に貴重なる一點を得遂に一Ａ對零で同志社の勝となつた。

リーグ戰第二回戰　同志社大學との第二回戰は五月十九日午後三時三十分から寢屋川球場に於いて開始十四對三で本學大勝した。戰績次の通りであつた。

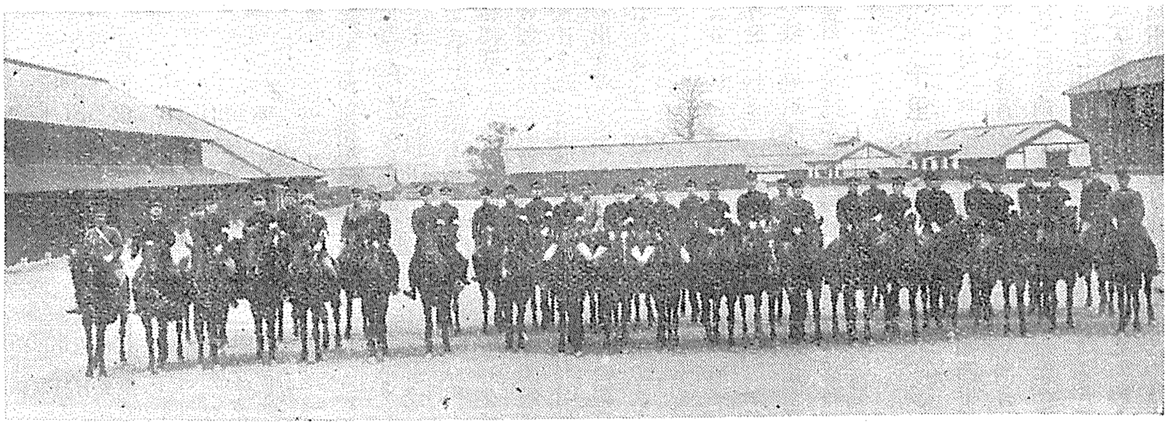
關大	
SS	川村
3B	林
P.RF	森田
RF.P	金政
1B	近藤
LF	菊川
C	尾阪
2B	西浦
CF	横澤

失策	四死球	三振	盜壘	犠打	安打	打數
四	七	八	三	三	一二	三九

同志社	
SS	林
2E	厚見
1B.P	高田
LF	河本
C	芝
3B	松田
RF	山根
CF	久保田
P.1B	所司原

失策	四死球	三振	盜壘	犠打	安打	打數
七	二	七	五	一	五	三五

超えて二十九日關西學院との第二回戰を寶塚球場に於いて行つた。午後三時四十分から松田(球)高田(壘)兩氏審判の下に關西學院先攻にて開始、六Ａ對二で本學の勝となり六時閉戰した。



福島乘馬會員(記事參照)

リーグ戰第三回戰　同志社大學との第三回戰は五月二十八日午後三時三十分から寢屋川球場で辻(球)倉田(壘)兩氏審判、同志社先攻にて開始、大接戰を演じたが結局五對二で同志社の勝となつた。

更に六月三日午後四時から寶塚球場に於いて關西學院と戰つたが三Ａ對一で本學の勝となる。

斯くて本年度春季リーグ戰は幕を閉ぢたのであるが、以上の成績に鑑みて優勝校はなしと云ふことになつた。

神戸高商に勝つ　六月十日午後三時二十分から寶塚球場に於いて神戸高商と戰つた。孫(球)片岡(壘)兩氏審判本學先攻にて開始したが高商軍振はず結局十一對二で本學の勝利に歸した。閉戰五時二十分。

福島野球部報

本學福島野球部は從來貧弱であつて殆ど其存在をすら認められてゐなかつたが、今回主將佐伯君以下選手一同甚だ之を遺憾とし大學チームとして他に遜色なき堅實なるチームを作らうと、連日神崎川に於いて猛烈なる練習を續けてゐる。其新陣容は次の如くであつて同部では學友諸君の熟誠なる後援を切に希望してゐる。

P	門脇	松田
C	森脇	
1B	堀井	
2B	玉田	北尾
3B	森	
SS	松田	
LF	丸泉	
CF	佐伯	
RF	五百城	
補缺	小寺	境
	赤座	

(松濤君報)

千里山蹴球部報

大阪毎日後援法政大學對本學のア式蹴球戰は五月二十五日午後三時から甲子園でレフェリー辰馬、ラインズメン山中、森田、三氏の下に本學の先蹴で開始したが三對〇で本學の勝ちとなつた。

福島劍道部主催劍道大會

福島劍道部では六月七日午前九時から福島學舍道場に於いて例年の劍道大會を開催した。番組は中等學校、專門大學校、官署等百二十番に及び、高點試合として加藤氏（武德會大阪支部）の十一人拔き、尼子氏(御影師範)の七人拔き、天野氏(外語)等があり午後五時散會したが頗る盛會であつた。

福島乘馬會報

近時國際間の諸競爭が激甚となるに伴つて國民の體力增進が朝野の問題となるに至つた。卽ち今後の國際競爭に於いて勝利を得んが爲めには先づ國民の體力を强健にして如何なる艱苦にも堪え得るやうにせねばならぬと云ふのである。此意味から近來乘馬熱の盛になつたことは誠に喜ぶべき現象と云はねばならぬ。本學の乘馬會に於いてもよく此國家的見地に立つて乘馬を單なる遊技と見ず、國民體力の增進と青年趣味の向上とを目的として大いに活動を續けてゐる。卽ち既に第二回の練習生を送り出し今や第三回の練習生が教練を受けてゐる。今回の申込者の如きは實に四百三十餘の多きに達したが隊の都合でその中三十五名を採つた。教官山東中尉、瀧本曹長、植野軍曹、贊助員

栁木浩巖、同西本政五郎、同前田貞次の諸氏を始め會長、副會長、助教の諸氏は何れも熱心に會員の指導に任じ會の發達に資すること多きは誠に推稱に價するところである。因に同會目下の役員は次の通りである。

△贊助員＝栁木浩巖(校友辯護士)前田貞次(校友)
△會長＝淺野繁雄(商三)
△副會長＝山下與平(商三)
△助教＝杉村守清(商三)、眞鍋竹二郎(法三)、森吉太郎(法二)、林秀穗(校友)
△第一班　幹事＝安田日出男(經三)、副幹事＝中塚芳郎(法三)、班員＝大橋義榮(校友)、金田貞雄(經三)、平川貞雄(經三)、高沖次郎(經三)、井戸崎好次(經三)、赤塚重正(經三)、高原孝吉(法三)、舟津和夫(法三)、油谷英一(法三)、太郎貞嶽(商三)、西岡清一(商三)、根津菊治(商三)
△第二班　幹事＝若宮虎雄(商二)、副幹事＝田邊勇二郎(法二)、班員＝横田義德(法二)、林勇(法二)、銀島萬作(法二)、西川榮一(商二)、內田篤親(商二)、嵐勝歳(商二)、田中英(經二)、保田文夫(經二)、花木政一(經二)、山縣悦治(經二)

卒業紀念對級競技

千里山學部三年の諸君は後一年を以て思出多い千里山學舍を去ることになるので、最後の思出に法三對商三の對球競技會を、野球、庭球、角力、柔劍道、陸上競技、水泳等について行ふこととなり、其第一回として去る五月二十三日午前十一時半から新京阪沿線南方廣場に於いて兩クラスの野球戰を擧行した。折柄の好天氣に見物人も多く選手も緊張して面白いゲームを見せたが結局次の通りの成績を以て法三チームの勝利に歸した。(山崎君報)

審判井上萬(球)山村兼(壘)

法三

P	眞柴
C	山村茂
IB	紙(丹羽)
IIB	福西
IIIB	高田
SS	林
RF	木村
CF	武貞
LF	一井

失策	四死球	三振	犠打	安打	得點	打數
三	一三	〇	三	一四	一六	四二

商三

P	久保田
C	井上
IB	田中奥田
IIB	山本許
IIIB	脇野
SS	柴田
RF	三宅周
CF	吉川
LF	辻野

失策	四死球	三振	犠打	安打	得點	打數
六	五	八	三	一一	一五	三九

千里山明星會

同會では去る三月第一回卒業生を送り出したが新學期に入ると共に多數の新進の士を迎へて會運愈壯である。殊に此度新しく講師として就任された田坂氏、加藤氏は何れも明星商業の出身者であつて同會と特に親しい關係を保たれることになつた。そこで兩氏の就任祝賀並びに新入會者の歡迎會を去る二日戎橋灘萬食堂に於いて開催した。來會者十數名、會は學歌に初まつて興はなかなか盡きなかつたが、殊に田坂講師の北米留學中の學生生活談は會員の興味をそそつた。午後九時盛會裡に散じた。

千里山關甲會

去る五月二日夕千里山學舍に學ぶ關西甲種商業學校出身者からなる關甲會の第三回會合が市立運動場前金水樓に於いて催された。此會合は極東オリムピックに出場する岸君及び大阪専門學校庭球聯盟戰に優勝した藤本、中島兩君の祝賀會及び新入學生諸君の歡迎會である。定刻參會する者三十餘名、桂、山本兩氏を聘して宴に入る。岸君に對する激勵の辭、同君の努力談、藤本、中島兩君の奮闘談、新入生諸君の感想、關甲時代の追懐談等興愈深く午後十一時半關甲萬歳を稱へて散會した。(久保靜籬君報)

千里山短歌會水無月例會

去る六月三日千里山短歌會では千里山學舍に於いて水無月例會を開いた。別項の如き詠草を發表して頗るインティメートな氣分の中に各自腹藏なき批評を交換し薄暮散會した。

千里山俳壇　朝冷選

□　大阪　山本迷雨

行く春の端山に遲き櫻かな
土の香を上げて春光漲りぬ
山氣冷えて來りぬ谷のもちつゝじ

□　神戸　津田道之助

春深き木にしみ〴〵と凭りにけり
藏の壁山吹の日に乾きけり

□　昆陽　宇津呂三之

曙の湖紫に山霞

追加　朝冷

苗代に朝風雨をもたらせぬ
筍を煑る日曜の雨にゐる
麥畑の一隅豆の明易き
雛の餌箱に朝の毛虫哉
武者窓の殘りし家の幟かな

一、當季雜吟募集　締切毎月二十日
一、送稿先　兵庫縣灘深江、有田朝冷宛
一、用紙半紙、封皮には必ず「千里山俳句」と朱記の事

千里山短歌　編輯部選

千里山短歌會水無月例會詠草

△　服部實
美しき絹のパラソルまぶしみつこの初夏をわれ病めりけり

△　谷口白羊
鼻をつく若葉の匂ひ香はしき青葉ぞ繁る初夏の庭

△　東清一
青葉かげ窓邊にゆれて夏に入れどわが身は戀のなきがらにして

△　加藤まさる
煤ほけし小屋の戸により鮮人のなやみも無げに笑ふもさびし

△　櫻井教授
雨はれて物干竿の玉しづく色とりどりに輝きにけり

△　上木樂羊
庭はまだほの蒼くして暮れやらず初夏の夕の部屋のともしび

△　田中基次
ものうさに九官鳥にたはむれて「馬鹿」と言はれりほほけたるわれ

△　高原草路
汝がはらむ兒の父や誰ぞいたづらのたはむれかなし若き女教師

△　入江寅一
うつろなる心となりて裏庭の枯れし櫻を見やるわれかな

△　辰巳孝治
しみじみと希望を思ふ日の多く我に春來ぬと獨りほほえむ

△　加藤講師

ゆくりなく水乞ひし家の乙女をも忘れかねけり南國の旅

△　坪田一羊

にほやかに息づかいつつみちみちに木幡の里の風をよろこぶ

△吉野の旅　土屋省一

音もなく淋しく村は黄昏れぬ吉野の川は唯青くして

みごり好し道者の枝の小鈴のみちやら〳〵なりてもやに消え行く

△筑紫　江口忠太

果てしなく野末に赤く日は落ちて靜かに寄する春の夕闇

さら〳〵とよきうすものをたたむごと朝の渚に打寄する波

晩春の雨の晴間を行く人の瞳明るし空仰ぎ見る

△セル着る頃　高原草路

春すぎて人みなセルの着物きる頃ともなりぬ木の若葉かな

やはらかき縞のセル着たる町娘はやも日傘をさしたり目立つ

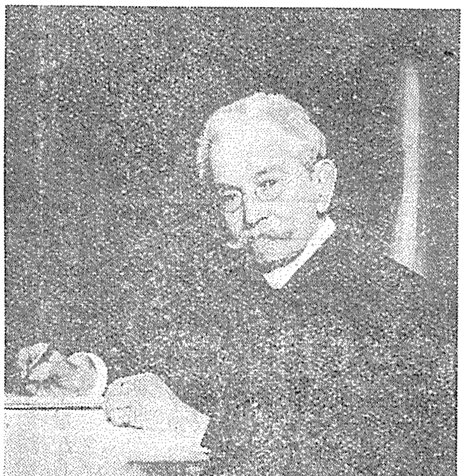
若葉する人妻や一心にセルの着物を椽側にぬふ

雜錄

ドイツ統計學界の權威ゲオルグ・フォン・マイヤー教授

統計學の内容外觀を整へて一の獨立したる學問にせんとするの努力は、從來各國の學者間に於いて拂はれてゐたところであるが、統計學が今日の如き狀態に發達したについてはフォン・マイヤー教授に負ふところが大である。

教授は一八四一年ヴュルツブルグ(Würzburg)に生れミュンヘン大學(München U.)に學んだ。一八六六年同大學の私講師(Privatdozent)となり一八六八年には助教授(Ausser-Ordentilcher Professor)に進み一八六八年にバイエルン(Beiern)の統計局長に任ぜられた。更に一八七二年バイエルンの内務省顧問となり一八七九年から八十七年まではドイツの鐵道及び大藏省の次官となつて實際的手腕を振つた。超えて一八九一年にはストラスブルグ大學(Strassburg U.)の名譽教授に任じ九十八年には母校ミュンヘン大學に歸つて正教授(Ordentlicher Professor)となつた。



書齋に於けるマイヤー教授

本邦統計學界の權威高野博士もかつてドイツに留學中は教授に師事したこともあり。其の學界に對する貢獻は誠に大なるものがある。其著書の主なるものは次の通りである。

Statistik und Gesellschaftslehre.

I.Bd. Theoretische Statistik

II.Bd. Bevölkerungsstatistik

III.Bd. Moralstatistik

IV.Bd. Bildungsstatistik（未刊）

尙ほ本號掲載の教授の寫眞を得るについては京大汐見教授に負ふところ大である。特に記して同教授に對し感謝の意を表する。

新刊紹介

金融機關の綜合的研究

本學教授　沖中恒幸著

著者の言葉に從へば『出來得る限り多量に且つ多くの割合に社會の購買力を支配すると言ふのが、現代企業家の最も重要なる役目である。社會に存在する購買力を、散在するあらゆる隅隅から掬ひ上げて、之を自由に處分し得る樣に自己の手に取り集める。此の仕事に最も成功せるものが卽ち近代資本主義經濟組織に於いて最も優秀なる地位を占め得るに適せるものである。』(序文の一節)從つて企業家が夫を通じて社會の隅隅から購買力を掬ひ上ぐる金融機關の研究は經濟學研究上最も重要な且つ基本的部分をなすものである。此の見地より著者が其將來を委ぬべき經濟學研究の第一歩として爲し遂げたる仕事のプロダクトが卽ち本書である。著者は尙ほ序文に於いて續けて云ふ。『餘剩の購買力はその日の生活にさへ追はれる貧民階級の裡にも、寡婦の懷にも、大富豪の手にも、等しく蓄積されて行く。從つて一言に夫を餘剩と稱しても夫に對する期待に於いて、所有者との關係に於て甚しき相異を見るのである。之等總ての異れる性質の蓄積を一種類の機關によつて吸集する事は出來ない。蓄積の性質の異なれるに相應じて、之等を吸集せむとする機關の性質も亦異ならねばならぬ。更に他面之を利用せむとする企業家の性質並に用途に於いても多くの異なれる性質を示すが故に、之に應じて亦機關の性質を異にすることが必要である。』かくて其の性質上又は其の作用上多くの種類に分類された金融機關が、如何に統一されたる全體として整調されたる作用を營みつつあるかを『其の有の儘なる姿に握らう』とするのが著者の努力である。筆者は著者の此の努力が透徹せる理論と該博なる事實の記述とを通じて書中に横溢せるところに本書が他の金融論の著書と異なる特長を見る。文章も亦簡にして含蓄に富む。著者が最初の學的勞作として蓋し推稱に價ひするものであらう。（東京市神田區中猿樂町二、巖松堂書店發行、定價金四圓）

—T・M生—

不許複製

大正十四年六月十三日印刷
大正十四年六月十五日發行

大阪市此花區上福島北二丁目
關西大學學報局
編輯兼發行人　辰巳經世

大阪市西區土佐堀通四丁目五番地
印刷者　飯田彌之助

大阪市西區土佐堀通四丁目五番地
印刷所　株式會社　三有社

大阪市此花區上福島北二丁目
發行所　關西大學學報局

大阪市此花區上福島
福島學舍　關西大學
電話土佐堀（一〇四九）（五五七〇）

大阪市外千里山
千里山學舍　關西大學
電話 吹田 一 二 三

關西大學講師　木下孫一先生著

最新日本憲法論

△菊判總クロース製　紙數約三百頁　定價金參圓

近刊豫告

本書は關西大學專門部に於て憲法講座を擔任して夙に令聞ある著者が、多年研究の結果である講義の草稿を基礎として、更に幾多の改訂を施して近く公刊せられんとするものである。明快なる文章を以て能く日本憲法の大要を説いて遺憾なきのみならず、特に著者が意を注げるは、本書を以て各種受驗者絶好の參考書たらしめんとする點にあり、蓋し本書の特色も亦從つてこの方面に存するであらう。菊版約三百頁の大作、本月末日を以て出版せらるゝ筈である。

東京市神田區中猿樂町二番地
株式會社　巖松堂書店
振替東京六五五六番
電話四谷五九四四番

御願二件

▼御面倒ですが校友各位の當學報局に寄せられる御書信には必ず御卒業の年度並に部、科名を御書き添へ下さるやう御願ひ申上げます。

▼這般集金郵便に關する規則が改正せられまして一口金額參圓以上でなければ取扱はれないことになりました。就きましては本誌の維持費を集金郵便で御拂込み下さる場合には申し兼ねますが一箇半分若くはそれ以上として金額參圓以上御指定下さるやう勝手ながらこれ亦御願ひ申上げます。

大正十四年六月　關西大學學報局

關西大學校友各位

學生諸君に告ぐ

千里山學報投稿に就て

▼學友會各部の記事、各種研究會、親睦會、縣人會その他學生諸會合の記事、論文、文藝作品等本誌に掲載希望の原稿は、總て千里山學舍圖書閲覽室内及び福島學舍學生入口左側に設置してある千里山學報投稿函に投入して下さい。

▼但し寫眞その他投入不能の材料は、事務所又は學報局へ直接提出して下さい。

▼毎號締切は前月二十五日限りとし、その以後の分は次號に廻します。

▲尚ほ取捨撰擇は一切學報局へ任せて頂きます。

大正十四年六月

關西大學學報局

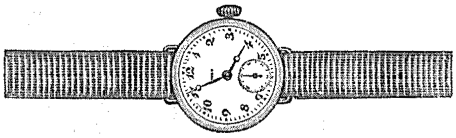
柿崎記念文庫の設立に就て

關西大學理事として永年盡瘁せられた柿崎欽吾氏が昨年十二月長逝せられたことは私共の痛惜に堪へぬ所であります。就ては今回同學に對する故人の功德を永久に記念する爲め同志相謀つて左記の事業を遂行いたしたいと存じます。何卒微衷を諒せられ該事業に御賛同下され御高援を仰ぎたく御懇願申上げる次第であります。

記

一、柿崎記念文庫を設け之を關西大學に寄贈すること
一、右に要する資金は之を大方各位の喜捨に仰ぐこと、但し便宜上一口を金五圓とする
一、書籍の購入に關しては發起人に御一任願ふこと
一、事業の經過は關西大學發行千里山學報誌上に於て御報告申上げること

大正十四年六月　柿崎記念文庫設立發起人一同



フェルモー號

端西國ウヰリアム、ゼー、バーナード時計會社製「去華就實」主義ノ時計、其號「フェルモー」伊語（FERMO）ハ實ニ其名ノ示スガ如ク精確堅牢ニシテ永久ニ安心シテ御携帶ヲ願ヒ得ル斯界ノ逸品切ニ御試用御勸メ申上マス

ニツケル	パリス型	「フェルモー」	アンクル	十五石入	八型半	腕時計	金貳拾五圓
銀	同	同	同	同	同	同	金貳拾貳圓
同	同	同	同	同	九型半	同	金貳拾壹圓
同	ラージ型	同	同	同	八型半	同	金參拾五圓
十八金	同	同	同	同	同	同	金參拾五圓
同	同	同	同	同	九型半	同	金四拾五圓

右ノ外ニ

ニツケル	パリス型	「コンゴー」	アンクル	十五石入	十型半	腕時計	金拾貳圓
銀	同	同	同	同	同	同	金拾參圓

大阪高麗橋四丁目（淀屋橋筋南入東側）

生駒時計店

電話本局八四五、四七一六
振替番號大阪三八五

商號改稱に就き各位へ

謹啓薄暑の砌愈御清祥奉慶賀候偖 小店儀 巖松堂大阪店の商號並に營業の一切を去る大正九年十月當時の經營者波多野重太郎氏より讓受今日に至り候處世間には依然東京(株式會社)巖松堂書店と同店の如く誤解さるゝことも有之候に付き此度 小店儀 は從來の巖松堂大阪店を大同書院と改稱いたし今後一層業務の發展擴張を計る事に相成候間倍舊の御眷寵を賜り度此段御挨拶旁奉悃願候 敬具

大正十四年六月十五日

大阪市北區曾根崎上三丁目
松本善次郎
電話北一六五三番
振替大阪三一九七二番

商號改稱
舊 巖松堂大阪店
新 大同書院

營業科目
法律 政治 經濟 商業 圖書 出版 販賣

販賣圖書の主なる出版元
東京 巖松堂
東京 有斐閣
東京 清水書店
東京大阪 寶文館
東京 同文館
京都 弘文堂
東京大阪 文雅堂
東京 文信社
東京 酒井書店
東京 良書普及會
東京 松華堂
東京 法律評論社
東京 岩波書店

關西大學講師 木下孫一著
日本憲法要論
菊判總布上製 紙數二五四頁 定價金貳圓五拾錢 送料金拾八錢

大阪地方裁判所部長 法學士 和田干一著
婚姻法論
四六判總布上製 紙數八〇〇頁 定價金五圓八拾錢 送料金拾八錢

大阪地方裁判所部長 法學士 和田干一著
親族法
第一分冊(既刊) 定價金壹圓
第二分冊(既刊) 定價金壹圓
第三分冊(印刷中) 以下續刊

辯護士 法學士 入江眞太郎著
不法行爲論(第一卷)
菊判背革總クロース上製 紙數四八〇頁 定價金四圓八拾錢 送料金拾八錢

辯護士 法學士 入江眞太郎著
辯護士道德論
四六判總クロース上製 紙數二四〇頁 定價金貳圓五拾錢 送料金拾貳錢

關西大學教授 佐々穆著
國際民商法論
近刊

大阪北區曾根崎上三丁目八番地
巖松堂大阪店改稱
大同書院
振替大阪三一九七二
電話北一六五三

關西大學講師 **山村喬譯**
シドニ並にビアトリス・ウエッブ著

消費組合運動

組合員四百五十萬、持分資本一億萬磅、賣上金高年額二億五千萬磅、これ價格上の利潤廢止を根本基調として築き上げてゐる**イギリス**千四百の消費組合の示す**レコード**である。これ豈に利潤を目的とする資本主義經濟組織の中にあつて、宛然一の『國家内の國家』をなすものではなからうか。この巨大な勞働者階級運動の組織と事業との現狀が斯界の權威**ウエッブ**氏夫妻によつて、最も詳細に分析叙述せられ、且つこれらの事實を基礎とする將來の展望が開展されたものが本書である。消費組合運動の極めて幼稚なる我國に於て本書の投げる光は、その將來を照らすであらう。（大原社會問題研究所叢書）

定價　四圓八拾錢
送料　貳拾錢
菊判　六百頁
上製　函入

消費組合運動の經典

久留間鮫造譯
ビアトリス・ポッター（ウエッブ夫人）著

重刷

消費組合發達史論

—英國協同組合運動—（大原社會問題研究所叢書）

定價　貳圓
送料　拾貳錢

發兌　東京神田西紅梅町　同人社　振替東京二七〇六五　電話大手五五八五

關西大學教授　沖中恒幸先生著

金融機關の綜合的研究

菊版クロース製
紙數約五百頁
定價金四圓

新刊

『本書の目的とする所は、世界を通じて發展しつつある所の、各種の金融機關が前述企業家の最初にして基本的なる目的の爲めに、如何に統一されたる全體として、整調されたる作用を營みつつあるかを知らうとするにある。かくて現代經濟組織の最奧にあつて、社會を動かしつつある力の働きを、其有の儘なる姿に握らむとするにあるのである。從つて各種金融機關の個別の內部に深く入込むで、專門家的立場から研究を試みるものでは無い。飽く迄も異なれる各種を綜合的に見て、最後の目的とする所の爲めに、各各が與へられたる立場に於て、如何によく統一的作用を爲しつつあるかを知らうとするに過ぎない。唯偶然にも此試みが金融機關研究に入らむとする初學の人達に取つて、機關そのものの性質、作用等に就て多少の參考ともなり得るならば、誠に望外の喜びである』……著者序文の一節……

發行所

東京市神田區中猿樂町二番地

巖松堂書店

電話四谷五九四四番　振替東京六五五六番

近刊豫告

關西大學教授 宮島綱男先生著

經濟學原理 上卷

本書は著者が關西大學に於いて年年若干の補正を加へつつ講じ來つた經濟原論の稿本に今回更に幾多の校訂と增補とを施して新しく世に問はんとする著者近年の勞作である。

『此小著を公にすることによつて恩師ジード教授の所說を祖述するの機會を得たことを喜ぶ』とは著者の謙讓な言葉であるが、尙夫以上刻刻發展して止まぬ社會の經濟事象に對し研學上獨自の見解を開いた點も少からぬやうである。これから始めて經濟學を學ばんとする人人にとつて懇切な手引書であると同時に、經濟學を專門に硏究しつつある人人の間にも亦充分重んぜらるべき著作の一であることを信ずる。殊に書中に於いて取扱つた各種の問題について豊富且つ詳細なビブリオグラフィーを附してゐる點は讀者にとつて何よりも便利な特長をなすものであらう。

發行所
東京市牛込區赤城下町二十一番地
賾文堂

關西大學第三回夏期語學講習會會員募集

◈會員
男女ヲ問ハズ入會ヲ許ス

◈科別
英語科—佛語科—獨語科

◈會期
大正十四年七月二十日ヨリ同八月八日マデ

◈授業時間
午後六時ヨリ同八時マデ

◈會場
大阪市福島關西大學福島學舍

◈會費
入會金——金壹圓
聽講料——金參圓五拾錢
但シ關西大學學生竝關西甲種商業學校及關西大學第二商業學校生徒ニ限リ入會金ヲ免除ス

◈申込期間
大正十四年七月二十日マデ

◈講師
關西大學教授竝講師

◈備考
詳細ハ大阪市福島關西大學福島學舍內本會ヘ照會ノコト
（會則郵券貳錢）

關西大學隣接住宅地

特價分讓

健康地帶！

天神橋筋六丁目から新京阪電車の直通により
大阪へ十六分間、關西大學へは徒歩にて十分間で行ける

千里山住宅地の特價分讓

△奔騰の前兆ある絶好放資物　大阪は東洋第一の生産土地で自然市內は住居に適せず日々郊外住宅地より市內へ蝟集する住民は無慮數十萬と稱せられてゐます、就中千里山分讓地は大大阪都市計畫區域中、北郊唯一の指定住宅地にて土地の繁榮は勿論地價奔騰は目前に迫つて居ります

△行屆いた各種の設備　十數萬坪の內、土工地約七萬坪は地區整然たる道路、衛生的の下水、水道、瓦斯總ゆる文化設備が完備し小綺麗な**バンガロー**や別莊風の日本建築が周圍の美しい環境に包まれて居ります

△當分の間早い者勝ち　千里山の土地を資金化する爲め其一部を殆ど原價にて分讓致します、月賦拂の便法もありますから御希望の方は左記へ御申込を願ひます

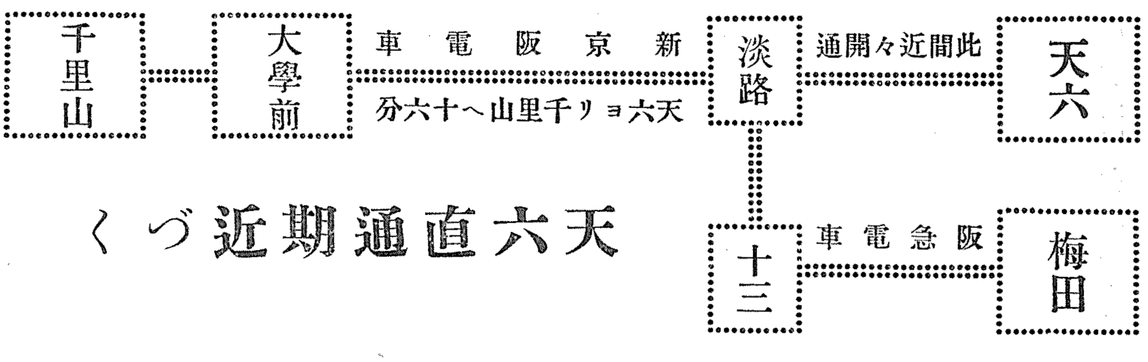
> 勿論貸家は三百戸もありまして御意に叶つた家が時々空くこともあります

大阪市東區北濱二丁目二十七番地（內北濱）
大阪住宅經營株式會社
電話本局 一一五五三番 一一五五四番

千里山出張所
電話 吹田 一〇五番

交通至便！

經營地 拾四萬坪
既成住宅 三百戸



天六直通期近づく